

2023年度
大学院医学系研究科博士課程

履 修 案 内

Guide to Doctoral Program, Graduate School of Medicine



国立大学法人

滋賀医科大学

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

目 次

- ・ 大学院医学系研究科博士課程学年暦
- ・ 滋賀医科大学の理念・使命
- ・ 大学院医学系研究科博士課程教育目標
- ・ 大学院医学系研究科博士課程の方針（三つのポリシー）
- ・ 大学院医学系研究科博士課程の概要
- ・ 大学院医学系研究科博士課程の構成
- ・ 大学院医学系研究科博士課程のカリキュラムツリー
- ・ 履修要項
- ・ 2023 年度授業日程表
 - （医学総合特論、テクニカルセミナー、医学・生命倫理学概論、疫学・医療統計学概論）
- ・ 大学院医学系研究科博士課程授業科目及び担当教員一覧
 - 先端医学研究者コース・高度医療人コース・学際的医療人コース
 - がん専門医療人養成コース
 - NCD疫学リーダーコース
 - 地域で活躍する法医臨床医・法歯科医養成コース
- ・ 医療データサイエンスを基盤とするグローバルリーダー育成プログラム
- ・ 教員の主な研究内容等
- ・ 国立大学法人滋賀医科大学大学院医学系研究科における研究指導計画等に係る申合せ
- ・ 大学院学則
- ・ 学位論文審査実施要項
- ・ P h D－MD制度について
- ・ 大学院（博士課程）における大学院設置基準第 14 条特例の適用に関する申し合わせ

令和5年度 大学院医学系研究科博士課程 学年暦

Academic Calendar 2023-2024 in the Doctoral Program, Graduate School of Medicine

行 事 Events	日 程 Schedule
入学宣誓式・新入生履修指導（春季） Entrance Ceremony / New Student Guidance (Spring)	4月 4日（火） April 4, Tue.
前期授業期間 Term of Classes for First Semester	4月 7日（金）～ 8月 7日（月） April 7, Fri. – August 7, Mon.
研究基礎力試験 （QE : Qualifying Examination）	7月 5日（水）～ 7月11日（火） July 5, Wed. – July 11, Tue.
夏季休業 Summer Recess	8月 8日（火）～ 9月30日（土） August 8, Tue. – September 30, Sat.
学位論文研究発表会（第1回） Presentation for Thesis Defense (First Time)	8月22日（火）～ 8月24日（木） August 22, Tue. – August 24, Thu.
集中講義（テクニカルセミナー） Technical Seminar	9月12日（火）～ 9月15日（金） September 12, Tue. – September 15, Fri.
学位授与式（秋季） Degree Conferment Ceremony (Autumn)	10月 2日（月） October 2, Mon.
入学宣誓式・新入生履修指導（秋季） Entrance Ceremony / New Student Guidance (Autumn)	10月 2日（月） October 2, Mon.
後期授業期間 Term of Classes for Second Semester	10月 3日（火）～ 3月 4日（月） October 3, Tue. – March 4, Mon.
冬季休業 Winter Recess	12月19日（火）～ 1月 4日（木） December 19, Tue. – January 4, Thu.
学位論文研究発表会（第2回） Presentation for Thesis Defense (Second Time)	2月16日（金）～ 2月21日（水） February 16, Fri. – February 21, Wed.
春季休業 Spring Recess	3月 5日（火）～ 3月31日（日） March 5, Tue. – March 31, Sun.
学位授与式（春季） Degree Conferment Ceremony (Spring)	3月21日（木） March 21, Thu.

【備考】

- 1) 定期健康診断の日程は、別途通知する。
- 2) 10月27日（金）は、学園祭（若鮎祭）の開催にともない休講とする。
- 3) その他、学年暦に変更があった場合は、その都度通知する。

(Notes)

- 1) The schedule for health checkup will be notified separately.
- 2) Classes will be cancelled on Friday, October 27 due to the school festival (Wakaayu Festival).
- 3) Any other changes to the academic calendar will be notified accordingly.

滋賀医科大学の理念・使命

Philosophy, Goal and Mission of Shiga University of Medical Science

理念

Our Philosophy

地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく大学として、医学・看護学の発展と人類の健康増進に寄与する。

As the university which is supported by its local community, contributes to the community and plays an active part in the world, we contribute to development of medical and nursing science and promotion of human health.

使命

Our Missions

大学院は、医学及び看護学の領域において、優れた研究者及び高度な知識と技術をもつ専門家を養成することを目的とし、もって、医学及び看護学の進歩と社会福祉の向上に寄与することを使命とする。
(国立大学法人滋賀医科大学大学院学則第2条より抜粋)

We strive to nurture outstanding researcher and expert with advanced knowledge and capability in medicine and nursing. Our mission is to apply advances in medicine and nursing to the betterment of welfare in our society. (Article 2 of the Regulations of Shiga University of Medical Science)

大学院医学系研究科博士課程教育目標

大学院医学系研究科博士医学専攻では、本学の使命のもと、高度な知識と技術をもつ専門家を養成し、教育・研究・実践の場で高度な専門性とリーダーシップを発揮し、豊かな学識に基づいた広い視野を持って、自立して活動することにより、次のような能力を備えた人材育成を目指しています。

高度な教養と倫理観

先端的な医学研究を推進するために必要な豊かな教養と確固たる倫理観を醸成し、科学的探究心を養成する。

高度な専門性とリーダーシップ

高度な医学研究に関する高い専門的知識や技能と、教育・研究・実践の場で発揮できるリーダーシップを養成する。

独創性と国際性

自らの構想による独創的な研究を推進し、国際的な視野を持ち、世界に向けて研究成果を発信できる能力を養成する。

社会への貢献

優れた医師や医療従事者を育成する教育活動を実施する能力や、医学の進歩と社会福祉の向上に寄与し、地域医療に貢献することができる能力を養成する。

大学院医学系研究科博士課程の方針

課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

大学院医学系研究科博士課程においては、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、必要な単位を修得のうえ、審査及び試験に合格し、次のとおり優れた知識と能力を身につけた学生に学位（医学専攻：博士（医学））を授与します。

1. 医学研究者として必要な専門的知識と研究技術を身につけている。
2. 医学倫理、生命倫理、研究倫理についての十分な知識と倫理観を身につけている。
3. 自立して研究を推進し、世界に向けて研究成果を発信することができる。
4. 医学研究や医療の推進を通じて社会に貢献することができる。
5. これに加え、コース毎に下記の能力を有することを修了の要件とする。
 - （1）先端医学研究者コースでは、最先端の専門的知識を持ち、産官学におけるリーダーとして国際的に活躍できる。
 - （2）高度医療人コースでは、専門医としてふさわしい知識と医療技術を持ち、医療現場でリーダーとして活躍できる。
 - （3）学際的医療人コースでは、医学と他分野を融合する学際的知識と研究能力を備えている。
 - （4）NCD疫学リーダーコースでは、疫学・臨床疫学の研究能力と産官学の分野でリーダーとなる現場力を持ち、英語に習熟し国際人として活躍できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院医学系研究科博士課程医学専攻では、ディプロマ・ポリシーに定める高度な知識・技術・能力を修得するため、次のとおり教育課程を編成します。

1. 教育課程の編成の方針

共通科目（またはコア領域）では、医学研究者として必要な専門的知識と研究技術を修得するとともに、医学倫理、生命倫理、研究倫理についての十分な知識と倫理観を修得する。

選択科目では、各専門領域における研究分野の講義、演習、実習により、最先端の知識と研究技術を修得し、自立して研究を遂行できる能力を養成する。

2. 教育課程における教育・学修方法に関する方針

- （1）1専攻4コースとすることで、すべての大学院担当教員による横断的で有機的な教育・研究指導体制とする。また、複数指導教員制とする。

- （2）先端医学研究者コース・高度医療人コース及び学際的医療人コースには、共通科目と選択科目をおく。

共通科目としては以下の授業科目を学修する。

- ①医学総合特論及びテクニカルセミナーでは、医学研究者として必要な専門的知識と研究技術を修得する。

- ②医学生命倫理学概論では、医学倫理、生命倫理、研究倫理についての十分な知識と倫理観を修得する。

- ③疫学・医療統計学概論では、医学研究にとって必要な疫学・統計学の知識を修得する。

- ④基礎と臨床の融合セミナーでは、基礎と臨床の枠を越えた知識と考え方を学ぶ。

選択科目では、各専門領域の最先端の知識と研究技術を学修し、自立して研究を遂行できる能力を修得する。

- （3）各コース毎に下記の特色あるコース科目を設ける。

- ①先端医学研究者コースでは、先端的で特色ある研究に触れる機会を設けるとともに、研究倫理の基礎や最先端の研究技法を修得し、自立して研究を遂行できる能力を修得する。

- ②高度医療人コースでは、臨床研究に重点を置き、医療倫理学や法制学を学び、医療現場でリーダーとして活躍できる能力を育成する。さらに専門医としてふさわしい医療技術を修得させ、専門医の資格取得を支援する。

- ③学際的医療人コースでは、医学に加え工学や理学等、学際的な知識と研究方法を教授し、産学連携の場で活躍できる能力を修得する。
- ④NCD 疫学リーダーコースでは、非感染性疾患（NCD）の疫学・臨床疫学・公衆衛生を修得させ、NCD 克服のために産官学の分野において国際的に活躍するリーダーを養成する。科目は、コア領域、支援領域及び実習に分類される。実習には、学外でのインターンシップも含まれる。

3. 学修成果の評価の方針

学修の成果は、シラバスに記載された学修目標について、試験及びレポート等、多面的な評価方法により到達状況を客観的に評価する。

研究の進捗状況については、第3学年にポスター発表による研究基礎力試験（QE）を行い評価し、研究指導計画書の点検を行う。

学位論文の審査は、厳格性と透明性を確保するために公開で行い、知識、能力、発展性等について評価する。

入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

本学の理念に基づき、優れた医学研究者や医療人となるのに必要な学識・能力・技能を修得する素養を持ち、高度な医学研究能力の修得に真摯に、また熱意を持って取り組む、次のような人材を求めている。

1. 医学・医療・生命科学や、医学と他分野との融合領域において、科学の探究を通して医学・医療の進歩・発展に寄与し、社会に貢献したいという意欲を持つ者
2. 国際的視野を持ち、世界的に活躍しようという意欲ある者
3. 生命に対する尊厳の気持ちを有し、確固たる倫理観を有する者
4. 産官学の広い分野で、疾病克服のためのリーダーとして活躍しようという意欲のある者

入学者選抜の基本方針

- ・先端医学研究者コース・高度医療人コース・学際的医療人コース
- 1. 医学・医療・生命科学や、医学と他分野との融合領域に分けて、その基礎知識と思考能力を問う「医学・生命科学一般」の試験を実施する。
- 2. 国際的視野と表現力を問う「外国語（英語）」の試験を実施する。
- 3. 研究意欲、協調性、倫理観等を確認する面接試験を実施する。

NCD疫学リーダーコース

1. 非感染性疾患（NCD）克服のための基礎知識を問う「小論文」の試験を実施する。
2. 国際的視野と表現力を問う「外国語（英語）」の試験を実施する。
3. 研究意欲、協調性、倫理観、語学力等を確認する英語による面接試験を実施する。
4. NCD克服に関する意欲、経験、語学力を確認する提出書類により評価する。

Policies of the Doctoral Program, Graduate School of Medicine

Diploma Policy (Policy for Granting an Academic Degree)

To complete a doctoral program, students shall meet the following requirements:

1. Acquire sufficient expertise and research skills as a medical researcher.
2. Acquire sufficient knowledge and ethical awareness in the fields of medical ethics, bioethics, and research ethics.
3. Acquire the ability to conduct independent research.
4. Contribute to society through the promotion of medical research and health care.
5. In addition to the above, students shall acquire the following abilities and knowledge for each of the Courses listed below:
 - 5-1. For *the Advanced Medical Science Course*, highly advanced knowledge and the ability to exert leadership in government, industry, and academic settings, including in international contexts.
 - 5-2. For *the Advanced Medicine for Clinicians Course*, knowledge and medical skills required to serve as a specialist, and the ability to exert leadership in medical fields.
 - 5-3. For *the Interdisciplinary Medical Science and Innovation Course*, interdisciplinary knowledge and research skills to integrate medical fields with other areas.
 - 5-4. For *the NCD Epidemiology Leader's Course*, capability in researching about epidemiology and clinical epidemiology and being leaders in the world of industry-academia-government who play an active role in reducing the incidence of NCD.

Curriculum Policy (Policy for Organizing and Executing Curriculum)

1. By establishing four courses at our Graduate School, we provide students with an organically systematized interdisciplinary education as well as research opportunities offered by our entire teaching staff. In addition, multiple teachers shall be responsible for each student in our Graduate School.
2. The Graduate School stipulates several required and elective subjects.
 - 2-1. *Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars and Technical Seminar* cultivates the expertise and research skills required to become a medical researcher.
 - 2-2. *Bioethics and Medical Ethics* cultivates students' knowledge and standards in the fields of medical ethics, bioethics, and research ethics.
 - 2-3. *Fundamentals of Epidemiology and Medical Statistics* fosters the knowledge of epidemiology and statistics that is necessary to conduct medical research.
 - 2-4. *Integrated Basic and Clinical Seminar* cultivates students' knowledge and ways of thinking beyond the scope of fundamental and clinical studies.
 - 2-5. *Elective Subjects* foster students' ability to independently conduct research by utilizing their most advanced knowledge in their areas of specialization, and their research skills.

Admission Policy (Policy for Admitting Students)

Desired Students:

1. Those who are motivated to contribute to the progress and development of medicine and health care through scientific exploration in the fields of medicine, health care, life science, and medicine-related interdisciplinary fields.
2. Those who have international perspectives and a passion to play an active role in the world.
3. Those who have respect for life and high ethical standards.
4. Those who are motivated to play an active role as a leader to overcome diseases in a wide range of fields in industry-academia-government.

Student Selection

[Advanced Medical Science Course, Advanced Medicine for Clinicians Course,

Interdisciplinary Medical Science and Innovation Course]

1. The Graduate School conducts a General Medicine and Life Science examination that separately tests students' fundamental understanding and thinking abilities in the following areas: medicine, health care and life science, and medicine-related interdisciplinary areas.
2. We also conduct a foreign language examination (English) to measure students' global sense and their ability to express themselves.
3. In addition to the two abovementioned examinations, candidate students must undergo an interview that confirms their passion for research, cooperative abilities, and high ethical standards.

[NCD Epidemiology Leader' s Course]

1. We conduct an essay examination to test applicants' basic knowledge about reducing the incidence of Non-Communicable Diseases (NCD).
2. We conduct a foreign language examination (English) to measure students' global sense and their ability to express themselves.
3. In addition to the two abovementioned examinations, candidate students must undergo an interview that confirms their passion for research, cooperative abilities, high ethical standards, and language ability.
4. We evaluate candidates by their submissions to confirm their passion for reducing the incidence of NCD in the world, doing research, and developing their language abilities.

大学院医学系研究科博士課程の概要

Outline of Doctoral Program, Graduate School of Medicine

教育研究上の目的

Objectives

大学院医学系研究科博士課程は、自立して創造的研究活動を行うのに必要な高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識及び人間性を備えた優れた研究者及び医療人を育成し、併せて医学の進歩と社会福祉の向上に寄与することができる人材の育成を目的とする。

This program is intended to educate able researchers in medical science so they may contribute to the development of medicine and the improvement of social welfare. Students will be provided with a wide breadth and depth of knowledge and skills to allow them to work creatively and independently.

カリキュラムの特徴

Features of the Curriculum

博士課程は、本学の研究実績と先進的な研究分野を組み入れ、各研究領域を横断した総合的な教育・研究体制に編成し、地域の要請に応えるとともに、他分野との学際的な人材育成にも対応できるように、1専攻4コース並びに「がん専門医療人養成コース」「Forensic Generalist, Forensic Specialist 養成コース（地域で活躍する法医臨床医・法歯科医養成コース）」により構成されている。

博士課程では、従来の講座主導型の研究指導体制から離れ、また、基礎と臨床にとらわれることなく、教員が相互に緊密な連絡をはかりながら、それぞれの専門研究を通して大学院学生の教育と研究を支援し、独創的な研究の育成をはかる。

博士課程の第1～2学年では共通科目を設け、研究に必要な基礎的知識と統計、分析、技能を修得するとともに医学倫理、研究倫理について学ぶ。また、コース毎に研究の進展に必要な科目を選択とし、研究者個人の独創性を重視し、優れた研究成果がえられるよう工夫している。

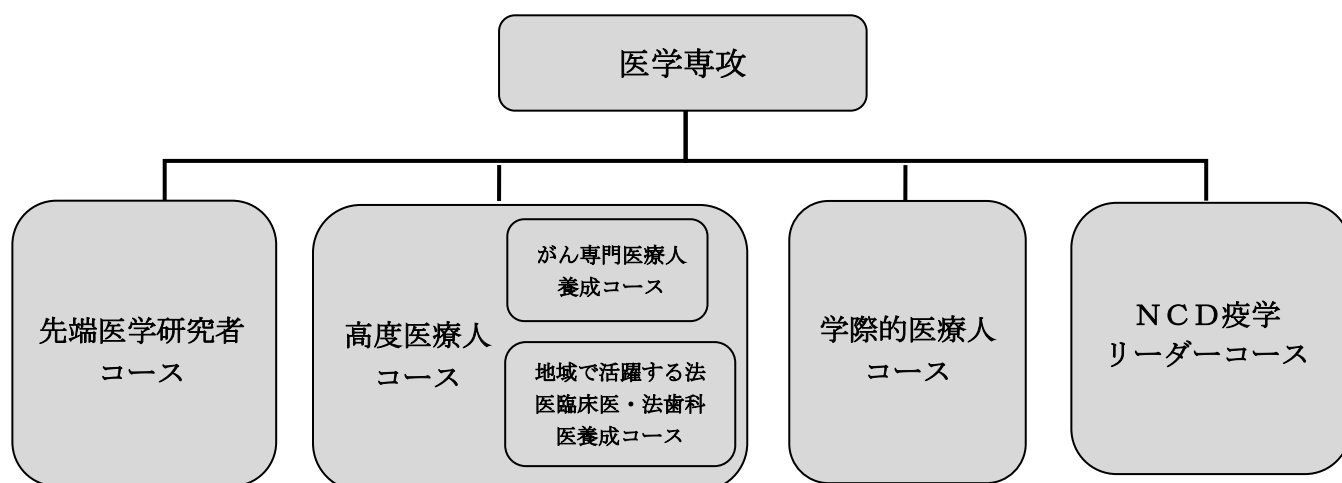
We have organized our Doctoral Program into 1 Specialty subdivided into 4 Courses, and we also have “Oncology Specialist Training Course,” and “Forensic Generalist, Forensic Specialist Course.”

Free from conventional departmental limitations on research guidance, the academic staff support the education and research work of graduate students, while maintaining close liaison with one another beyond the normal scope of basic medical and clinical departments.

During the first and second years of the program, through the Core Curriculum common, students acquire extensive knowledge of key areas including statistics, experimental design, analysis, and other skills fundamental to research. In addition, they will receive instruction in the ethical issues involved in medical research. The curriculum is designed to give great emphasis to the success and creativity of graduate students' research.

大学院医学系研究科博士課程の構成

大学院医学系研究科博士課程は、下図のように1専攻4コースにより構成されています。



【医学専攻】

本専攻では、①豊かな学識と医学全般に渡る幅広い知識を基盤とし、先端的で特色ある研究を遂行できる、医学研究者及び高度医療人 ②医学と工学、医学とバイオテクノロジーのような学際的知識と研究能力を兼ね備えた人材③豊かな学識と人間性および高い倫理観を備えた優れた医師および医学研究者の育成を目的として、4つのコースを設けています。

【先端医学研究者コース】

基礎医学から臨床医学まで医学の領域に関する医学研究を行い、博士論文を作成して学位の取得を目指します。

- ①医学研究者として自立して創造的研究活動を行うのに必要な高度の研究能力とその基盤となる豊かな学識と倫理観および人間性を備えた優れた研究者
- ②旺盛なる探求心と創造性を有し、基礎医学から臨床医学まで医学領域の諸問題の解決に挑戦する意欲的な人材の育成
- ③国際的に活躍できる最先端の知識と研究能力を有する医師/医学研究者の育成

【高度医療人コース】

専門医取得を目指しながら、主として臨床研究を行い、博士論文を作成して学位の取得を目指します。

- ①優れた研究能力に加えて高度な臨床技術を兼ね備え、高い倫理観と人間性を有する高度医療人
- ②臨床の現場での課題を研究に生かすとともに、研究の成果を臨床医学に生かして、新しい診断法や治療法の開発につなげる医学研究の展開を目指す
- ③臨床研究に重点を置くとともに、医療倫理や法制論を学び、医療現場でリーダーとして活躍できる人材を育成

○がん専門医療人養成コース

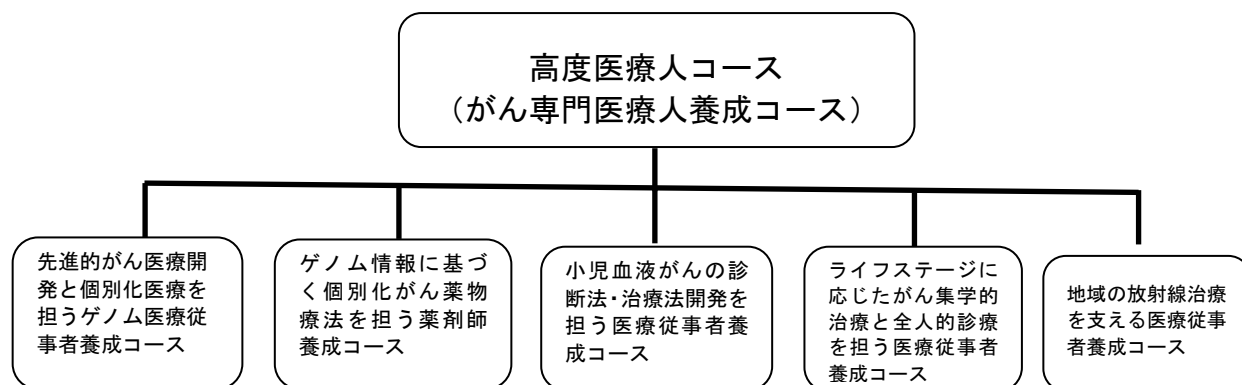
本コースは、平成29年度にがん専門医療人の養成を目的として、大学院医学系研究科博士課程医学専攻の中に、先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース、ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース、小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース、ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コースを設置し、令和4年度から新たに地域の放射線治療を支える医療従事者養成コースを設置しました。

[カリキュラムの特徴]

「がん専門医療人養成コース」は従来の大学院の枠組みに加え、臨床の専門医や医療資格の獲得を目的としており、学外の病院に勤務している医師や医療スタッフ（社会人）にも受けやすい体制、内容、目的となっている。

難治がんに対する先進的がん医療、ゲノム医療、小児がん医療、ライフステージに応じた集学的がん医療、地域の放射線治療を支える医療従事者の養成に重点を置いている。

[コースの概要]



《ディレクター：醍醐 弥太郎 教授》

- ・ 先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース

（責任者：醍醐 弥太郎 教授）

がんゲノム医療に精通したチーム医療を担う医療従事者（医師、医療スタッフ等）であるとともに、ゲノム情報を用いたがんの薬物療法や緩和ケア等及び先進的がん医療開発に従事できる高度かつ学際的能力を備えた人材を育成する。

- ・ ゲノム情報に基づく個別化がん薬物療法を担う薬剤師養成コース

（責任者：森田 真也 准教授）

ゲノム情報を適切に解析し、個々の患者に合わせて最適な薬物及び投与量を決定する個別化薬物療法へ向けて臨床応用することができる薬剤師を育成する。

- ・ 小児血液がんの診断法・治療法開発を担う医療従事者養成コース

（責任者：丸尾 良浩 教授）

小児血液がんにおける、最新の診断法と最新の治療を熟知し、それを基にして、さらなる小児血液がんの治癒生存率の向上、晩期合併症の軽減をはかるための、新規診断法の開発や、効果的な治療法の開発を遂行できる医療人を育成する。

- ・ ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース

（責任者：谷 眞至 教授）

ライフステージに応じた、基礎・臨床腫瘍学の概念を習得し探究する視点と技術を備えるとともに、遺伝性疾患の理解や社会医学と他領域の知識を兼ね備えた全人的医療を行う人材を育成する。

- ・ 地域の放射線治療を支える医療従事者養成コース

（責任者：渡邊 嘉之 教授）

基礎的な放射線治療法に習熟しているばかりでなく、定位放射線治療、強度変調放射線治療などの高度放射線治療にも対応できる高い知識と技能を持った放射線治療医、及び地域医療機関での放射線治療の質的向上のために、他職種とのチーム医療や教育にも熱意と能力を持った医療人を育成する。

○地域で活躍する法医臨床医・歯科医養成コース

本コースは、本学と京都府立医科大学、大阪医科薬科大学の3大学において、文部科学省令和3年度「基礎研究医養成活性化プログラム」に採択され、法医学の知見・能力を臨床医学等に活用できる医師及び歯科医師の養成を目的として、大学院医学系研究科博士課程医学専攻の中に設置したものです。

【カリキュラムの特徴】

死因究明等に関する地域の施策円滑に進めること及び地域のヘルスプロモーションやセーフティプロモーションに寄与すべく、法医学領域の専門家（Forensic Specialist）、法医学の知識を備えた医師（Forensic Physician）・歯科医師（Forensic Dentist）を養成する。本カリキュラム修了者が、防ぎうる死の予防につながる正確な死因究明や被虐待者や犯罪被害者等への医療に従事し、より地域社会に貢献することを目的としている。

【コースの概要】

・法医臨床医養成コース

主として法医学に関する知見や能力を備えた臨床医を育成する。医療現場で遭遇する異状死に対して適切な死体検案ができること、被虐待児や被虐待高齢者の診察を行い、損傷発生機序を正確に判断できること、犯罪被害者や死者の家族などに対する適切なグリーフケアができることなどを到達目標とする。

・法歯科医養成コース

主として法医学に関する知見や能力を備えた歯科医を育成する。まずは全身を視て死亡の概要を理解できるようにする。そして、死体の歯牙を観察し、デンタルチャートを正しく作成できること、身元確認作業が行えること、また、被虐待児や被虐待高齢者の診察を行い、歯科所見やバイトマークの有無を確認すること、顎顔面損傷発生機序を正確に判断できることなどを到達目標とする。

・法医専門医養成コース

法医実務や鑑定を主たる業務とし、法医学の専門家を育成する。法医解剖を執刀でき正しい法医鑑定ができること、法医学における幅広い知識を具有すること、裁判において正しく科学的知見を述べられること、法医学に関する研究に従事できることなどを到達目標とする。

【学際的医療人コース】

医学と他分野との融合による新しい学問分野の創成や医療イノベーションに関する研究を行い、博士論文を作成して学位の取得を目指します。医学部以外の出身者に配慮した授業科目を設置しています。

- ①医学、工学、バイオテクノロジーなど、従来の学問領域の枠を越えた学際的な知識と高い研究技術を有するとともに医療人として高い倫理観と人間性を兼ね備えた研究者
- ②学際的な知識と研究能力によって医学・医療の領域のイノベーションを担う人材
- ③基礎医学と臨床医学に関する幅広い知識に加え、学際的な視野と研究能力を有し、大学・企業等の研究所で活躍できる研究者

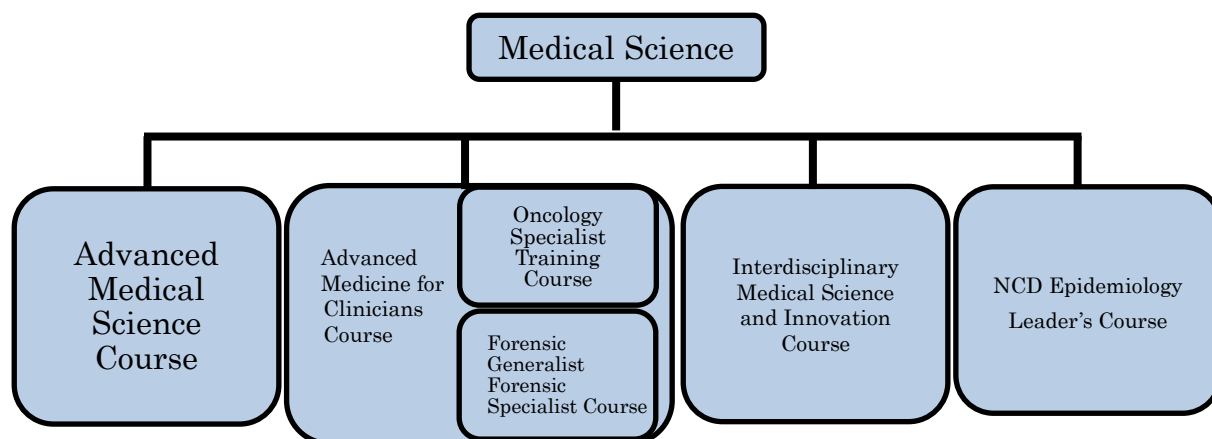
【NCD 疫学リーダーコース】

非感染性疾患（Non-Communicable Diseases、NCD）に関する研究を行い、博士論文を作成して学位の取得を目指します。

- ①非感染性疾患（NCD）に関する医学的知識、疫学方法論、生物統計学の高度な技術、世界の公衆衛生改善に対する構想力を兼ね備えたリーダーの育成
- ②英語コミュニケーションに熟達し、論理的議論ができるグローバルリーダーの育成
- ③大規模疫学研究、国際共同研究を体験し、一流の研究能力をもつアカデミックリーダーの育成
- ④健康関連産業や保健医療行政機関で活躍する現場力をもつリーダーの育成

Organization of Doctoral Program, Graduate School of Medicine

Doctoral Program, Graduate School of Medicine consists of 1 specialty and 4 courses as follows.



【Specialty of Medical Science】

Four courses are offered to grow (1) medical researchers and advanced clinicians who can perform unique and leading-edge research based on high academic expertise and broad knowledge in general medicine;(2) people with interdisciplinary knowledge and research abilities, for example, on medicine and engineering or medicine and biotechnology; and (3) physicians and medical researchers with high expertise, a sense of humanity, and high ethical standards.

【Advanced Medical Science Course】

Take medical experience from basic medicine to clinical medicine, and make a dissertation for the doctoral degree.

- 1) Researchers who have the knowledge and skills to accomplish a creative and ethical research program.
- 2) Person who has a vigorous inquiring mind with the creativity to solve many problems in the medical area from basic medical science to clinical medicine.
- 3) Doctors / Medical researchers who can understand advanced biomedical discoveries and new research activities.

【Advanced Medicine for Clinicians Course】

Build on experiences in clinical medicine and specialist training to undertake a dissertation for the doctoral degree.

- 1) Advanced clinicians who possess both ethical understanding and outstanding clinical skills, combined with excellent experimental ability
- 2) Use experimental results to develop the medical research leading to new methods for 1 diagnosis and treatment.
- 3) Understand the ethical and legal considerations in clinical medicine, and the ability to read and understand the biomedical literature.

【Interdisciplinary Medical Science and Innovation Course】

Take experiences in medical innovation combined with new discoveries from the fusion of medicine and other fields, and make a dissertation for the doctoral degree. This course provides material and subjects for students without a medical school background.

- 1) Researchers and clinicians with ethical skills, interdisciplinary knowledge and research techniques beyond conventional scholarship, including medicine, engineering, biotechnology
- 2) Using interdisciplinary knowledge and research to contribute to medical innovation
- 3) Contribute to knowledge of basic science and clinical medicine, and provide the interdisciplinary view and research ability to participate in academic, institutional and business environments.

【NCD Epidemiology Leader' s Course】

Students research about NCD (Non-Communicable Disease) and develop a doctoral dissertation to obtain the degree.

- 1) Well-balanced NCD leaders who possess medical knowledge concerning NCD, expertise in epidemiological methodology and biostatistics, as well as the ability to formulate novel solutions for improving public health in Asia.
- 2) Global leaders who are internationally minded, proficient in English, and capable of engaging in logical discussion.
- 3) Academic leaders with first-rate research skills based on extensive experience in large-scale epidemiologic research studies and international collaborative research.
- 4) Dynamic leaders capable of playing an active role at the front line of health-related industries and government agencies focused on public health issues.

博士課程カリキュラムツリー

4	学位論文（博士）			実習 学外武者修行	
3	選択科目			実習 アジア・フィールドワーク	
	先端医学研究者コース 医療画像学実習 核磁気共鳴医学実習 細胞生理学実習 分子細胞生物学実習 遺伝子情報学実習 分子神経形態学実習 神経科学実習 先端法医学実習 神経病態学実習 分子精神科学実習 睡眠精神医学実習 視覚病態生理学実習 免疫制御学実習 内分泌制御学実習 生殖生理学実習 ・ ・ ・ ほか全38科目から6単位	高度医療人コース 臨床法医学実習 循環器・呼吸器内科学実習 消化器・血液内科学実習 内分泌代謝・腎臓内科学実習 神経内科学実習 小児科学実習 精神医学実習 皮膚科学実習 消化器・乳腺・一般外科学実習 心臓血管・呼吸器外科学実習 整形外科科学実習 脳神経外科学実習 耳鼻咽喉科学実習 産科学・婦人科学実習 泌尿器科学実習 ・ ・ ・ ほか全42科目から6単位	学際的医療人コース 生体画像工学実習 生体情報工学実習 産業医学実習 解剖生理学実習 再生医学実習 生殖機能制御学実習 遺伝子工学実習 学際的疼痛治療学実習 システム生理学実習 組織工学実習 生体材料科学実習 医用光工学実習 ロボティクス実習 人工臓器学実習 神経科学研究 神経薬理学研究 から6単位	QE（Qualifying Examination:研究基礎力試験）	
2	基礎と臨床の融合セミナー			QE	
	基礎と外科学の融合セミナー 基礎と内科学の融合セミナー 基礎と小児科学の融合セミナー 基礎と老年病学の融合セミナー 基礎と生活習慣病学の融合セミナー 基礎と腫瘍学の融合セミナー から4単位以上			NCD疫学リーダーコース コア領域 公衆衛生クラスタ 医学統計クラスタ NCD疫学クラスタ 国際交流クラスタ から12単位必修	
1	コース科目			支援領域	
	バイオニアセミナー 先端医学研究技法	臨床医学研究総論 疫学・医療統計学 医療倫理学法制総論	基礎医学総論 臨床医学総論 バイオ医療学 ゲノムサイエンス バイオイノファマティクス イオンチャネル機能解析学 医療イノベーション総論（講義） 医療イノベーション総論（実習） 感染症学総論	NCD臨床クラスタ NCD臨床総論 多分野横断クラスタ 産業医学	
基盤教育群 医学総合特論 テクニカルセミナー 医学・生命倫理学概論 疫学・医療統計学概論			コア領域 公衆衛生クラスタ 公衆衛生学概論 医学統計クラスタ 疫学研究概論 臨床試験概論 生物統計学概論 NCD疫学クラスタ NCD疫学総論 国際交流クラスタ アジア文化・倫理の理解		
学際的医療人コース			医療データサイエンスを基盤とする グローバルリーダー育成プログラム		
先端医学研究者コース		高度医療人コース	NCD疫学リーダーコース		

博士課程カリキュラムツリー

4	学位論文（博士）						
3	コース選択科目				コース必修科目 8 単位 + コース選択科目 1 0 単位以上		
	臨床腫瘍学実習 がんゲノム医療学実習 遺伝統計学実習 バイオインファマティクス実習 呼吸器内科学実習 血液内科学実習 消化器内科学実習 小児科学実習 皮膚科学実習 消化器外科学実習 乳腺・一般外科学実習 呼吸器外科学実習 整形外科実習 脳神経外科学実習 耳鼻咽喉科学実習 産科学・婦人科学実習 泌尿器科学実習 眼科学実習 ・ ・ ・ ほか全 2 2 科目から 4 単位以上	臨床腫瘍学実習 がんゲノム医療学実習 遺伝統計学実習 バイオインファマティクス実習 から 4 単位以上	がん薬物療法学実習 臨床腫瘍学実習 がんゲノム医療学実習 遺伝統計学実習 血液内科学実習 から 4 単位以上	生体物理医学実習 免疫学実習 遺伝子工学実習 組織工学実習 呼吸器内科学実習 血液内科学実習 消化器内科学実習 小児科学実習 皮膚科学実習 消化器外科学実習 乳腺・一般外科学実習 呼吸器外科学実習 整形外科実習 脳神経外科学実習 耳鼻咽喉科学実習 産科学・婦人科学実習 泌尿器科学実習 眼科学実習 ・ ・ ・ ほか全 2 2 科目から 4 単位以上	生体鑑定学実習 グリーフケア実習 法医学病理学実習 法中毒学 エキスパート法医学実習 犯罪学特論	顎顔面外傷実習 法歯学 生体鑑定学実習 DNA鑑定実習 法中毒学 犯罪学特論	エキスパート法医学実習 法中毒学 外傷学特論 法医学病理学実習 DNA鑑定実習 法医学臨床検査実習
2	コース必修科目				法 医 臨 床 医 養 成 コ ー ス	法 歯 科 医 養 成 コ ー ス	法 医 専 門 医 養 成 コ ー ス
1	療 別 先 従 化 進 事 医 的 者 療 が 養 を ん 成 担 医 コ う 療 ー ゲ 開 ス ノ 発 ム と 医 個	剤 化 ゲ 師 が ノ 養 ん ム 成 薬 情 コ 物 報 ー 療 に ス 法 基 を づ 担 く う 個 薬 別	事 治 小 者 療 児 養 法 血 成 開 液 コ 発 が ー を ん ス 担 の う 診 医 断 療 法 従 ・	成 診 が ラ コ 療 ん イ ー を 集 フ ス 担 学 ス う 的 テ 医 治 ー 療 療 ジ 従 と に 事 全 応 者 人 じ 養 的 た	全コース共通 臨床法医学実習 個人識別学 法医学画像診断学		
	全コース 共通必修科目 がん基礎学 ゲノム医学 緩和ケア学 共通選択科目 腫瘍薬剤学 放射線腫瘍学 生命倫理学 医療統計学						
高度医療人コース							
がん専門医療人養成コース				基礎研究医養成コース（法医学）			

履修要項

授業科目の履修方法

【先端医学研究者コース・高度医療人コース・学際的医療人コース】

1. 第1～3学年において、「基盤教育群」（コース共通科目）の必修科目から10単位、「基礎と臨床の融合セミナー」（コース共通科目）の選択必修科目から4単位以上、「コース科目」の必修科目（先端医学研究者コース及び高度医療人コース）から4単位又は選択必修科目（学際的医療人コース）から4単位以上、「選択科目」から12単位以上（原則として所属コースの選択科目から12単位以上を選択するものとするが、希望する場合は、4単位まで他のコースの選択科目から履修できるものとする。）を修得し、合計30単位以上を履修するものとする。
2. 高度医療人コース「がん専門医療人養成コース」については、全コース共通必修科目から6単位、全コース共通選択科目から4単位以上、コース必修科目から16単位、コース選択科目から4単位以上、合計30単位以上を修得するものとする。
3. 高度医療人コース「地域で活躍する法医臨床医・法歯科医養成コース」については、全コース共通必修科目から12単位、全コース共通選択科目から8単位以上、コース必修科目から10単位、合計30単位以上を修得するものとする。
4. 第3・4学年においては、指導教員の下で、研究課題に即した研究指導を受けるとともに、自発的な研究活動に従事し、研究者として自立して独創的な研究活動を行うために必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

【NCD疫学リーダーコース】

1. 第1～4学年において、コア領域の必修科目から18単位、支援領域の選択必修科目から2単位、実習の必修科目から8単位、選択科目から2単位以上を修得し、合計30単位以上を履修するものとします。
なお、カリキュラムは変更する場合があります。
2. 第2学年から、指導教員の指示の下、研究課題に即した研究指導を受けるとともに、自発的な研究活動に専念し、研究者として自立して独創的な研究活動を行うために必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を養います。

【全コース共通科目】

（※がん専門医療人養成コースおよびNCD疫学リーダーコースを除く。）

1. 医学総合特論について
 - （1）全コース共通の6単位必修科目となっています。出席をとります。
 - （2）講義日程については、配付資料のとおりです。以下の4つの講義の形態で構成しています。
 - （3）年間を通して15回以上出席してください。出席回数が15回未満になると単位が与えられません。社会人入学者については2年間で履修可能です。その場合は学生課大学院教育支援係まで申し出てください。
 - ・通常講義：毎週 月曜日 5時限目（18：10～19：50）（※火曜日開講の場合有り。）
 - ・集中講義：テクニカルセミナー
 - ・認定講義：講演会、セミナー等が医学総合特論として認定される場合があります。出席した場合は、出席回数に数えられますので、「講演会・セミナー等出席状況シート」を期日月末までに提出してください。認定講義は随時、メールで通知します。
 - ・学 会：コースや今後の研究に関係がある学会・研究会に出席した場合は、3回まで出席回数に数えられます。（例：学会が2日間あり、2日間出席した場合は2回。）「講演会・セミナー等出席状況シート」に学会・研究会出席証明書のコピーを添付し学生課大学院教育支援係に提出してください。
2. 全コース共通必修科目の医学・生命倫理学概論、疫学・医療統計学概論についても1コマずつ予定表に組まれています。社会人入学者で勤務の都合上受講できない場合は、担当教員に連絡を取り、指示を仰いでください。
3. 全コース共通必修科目のテクニカルセミナーは、9月上旬に集中講義として開催しています。単位の修

得には全12コマ中3コマ以上出席が必要です。

4. 第2学年次必修科目の基礎と臨床の融合セミナーについても1コマずつ医学総合特論の予定表に組まれています。毎月行われている「SUMS グランド・ラウンド」に出席した場合、基礎と臨床の融合セミナーの成績に加味されます。
5. 講義の変更等があれば、その都度メールで周知します。
必ずマルチメディアセンターで、メールアドレスを取得してください。

【コース授業科目について】

履修登録後、履修確認票を配付します。2年次履修科目については、2年次に履修登録を行います。選択科目については、主担当教員に連絡を取り、指示を仰いでください。

研究基礎力試験（QE）について

第3学年次に研究基礎力試験(Qualifying Examination)を行います。詳細については別途通知いたします。

修了要件および学位授与について

（修了要件）大学院学則第21条（抜粋）

博士課程の修了の要件は、大学院に4年以上在学し、第16条第2項に定める授業科目について、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるものとする。
（学位）

（1）学位論文の提出期限は、4年次の12月20日締切（土・日曜で変更有り）となっています。
この場合、最低でもアクセプト＝掲載予定証明書が必要です。

ただし、投稿受理書があれば、大学院委員会の議を経て1年間の出願の猶予が認められることがあります（単位修得退学）。外国雑誌へ投稿する場合は、相当長期間の審査を必要とする場合がありますので、指導教員とよく相談し、計画的に投稿するようにしてください。

（2）プレゼント・アドレス

特別研究学生等の身分で、他大学で研究指導を受け、他大学の研究成果をもとに学位論文を作成する場合はプレゼント・アドレス（本学（在籍大学）の名称）を論文に明記する必要があります。

在学期間について

標準修学年限は4年。在学年限は、一般入学者は8年、社会人入学者は12年。

在学期間の特例について

1. 本学大学院学則第21条に定める博士課程の修了要件のうち、優れた研究業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるとされています。この具体的な取扱いについては、学生課大学院教育支援係に相談してください。
2. 社会人入学者以外の者についても、2年次以降一定の要件を満たせば、在学のまま、常勤就労が可能です。詳しいことは学生課大学院教育支援係に相談してください。
3. 海外留学、国内留学、休・退学等、身分異動に係ることについては、関係委員会の承認を得るなどの手続きが必要ですので、指導教員に相談の上、遅くとも希望日の1ヶ月前には申し出てください。休学期間は1年以内ですが、1年を限度としてその期間を延長することができます。通算して4年を超えることはできません。なお、休学期間は在学期間に算入されません。

進級について

進級は各学年における在学年限を満たしている場合に、年度初め（後期入学者の場合は後期）にのみ認められます。前期入学者の場合、後期に進級することはできません。

休学した場合は、次年度は進級できませんが、半期休学の場合には過去の在学状況により進級できる場合があります。

(例)

	1 年目		2 年目		3 年目		4 年目		5 年目	
学年	第 1 学年		第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年		第 4 学年	
学期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
在籍状況	在学	休学	在学	在学	在学	休学	在学	在学	在学	在学
在籍年数	0.5		0.5	0.5	0.5		0.5	0.5	0.5	0.5

(在学年数 計 4 年)

教育方法の特例

大学院医学系研究科博士課程においては、大学院設置基準（昭和 49 年 6 月 20 日文部省令第 28 号）第 14 条に係る教育方法の特例を適用し、有職者が離職することなく修学し、教育・研究指導を受けることが可能になるよう、昼間だけでなく夜間その他特定の時間又は時期に授業・研究指導を行なうよう配慮する。

学修成果の評価

1. 各授業科目の評価について、試験及びレポート等、多面的な評価方法により次の 5 種の評価により表し
可以上を合格とします。
秀、優、良、可、不可
2. 研究の進捗状況については、第 3 学年にポスター発表による研究基礎力試験（QE）を行い評価し、研究指導計画書の点検を行います。
3. 学位論文の審査は、厳格性と透明性を確保するために公開で行い、知識、能力、発展性等について評価します。

学生証について

19 時以降の校舎への入構及び附属図書館や研究施設を利用の際に必要となります。（本学職員の場合は、職員証で入構してください。）
破損・紛失等による交換は有料です。学生課窓口にて手続きを行ってください。

【注意事項：Notes】

・・・第2学年次での受講を推奨します。第1学年次の出席は、医学総合特論の一部とみなし、「基礎と臨床の融合セミナー」の単位認定のための出席とはみなされません。

It is recommended to take the course in the second academic year. The first year’s credits of “Integrated Basic and Clinical Seminar” will be counted as “Basic Science Fundamentals and Multidisciplinary S and will not be credited for “Integrated Basic and Clinical Seminar.”

開 講 日 程 Schedule		科 目 名 Subject	担 当 教 員 Instructor	授 業 題 名 Lecture title	備考（他の授業科目等と兼ねているもの等） Note	講 義 室 Lecture room
1	4月10日 月 Mon.	医学・生命倫理学概論 Bioethics and Medical Ethics	室寺 義仁 Prof. Muroji	医学・生命倫理学概論 Bioethics and Medical Ethics	全コース必修科目「医学・生命倫理学概論」 (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
2	4月17日 月 Mon.	疫学・医療統計学概論 Fundamentals of epidemiology and medical stastics	三浦 克之 Prof. Miura	疫学・医療統計学概論 Fundamentals of epidemiology and medical statistics	全コース必修科目「疫学・医療統計学概論」 (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
3	4月24日 月 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	柳沢 大治郎 Associate Prof. Yanagisawa	研究倫理「科学の健全な発展のために」	(日本語)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
4	4月25日 火 Tue.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	加藤 稯 Prof. Kato	Ethics in Science and its importance	(English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
5	5月8日 月 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	芦原 貴司 Prof. Ashihara	文献検索と学術情報リソースについて	(日本語・English)	WebClassを用いたオンデマンド形式 On demand by using WebClass
6	5月15日 月 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	扇田 久和 Prof.Ogita 三浦 克之 Prof.Miura 加藤 稯 Prof.Kato	英文医学論文作成入門 How to write medical papers in English	(日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
7	5月22日 月 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	等 誠司 Prof.Hitoshi Kenry Anak Daun	基礎医学総論 – 基礎医学の研究技法と最新の研究成果 – Basic research techniques and new findings	(日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
8	5月29日 月 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	依馬 正次 Prof. Ema	実験動物学 – 実験動物と動物実験の倫理 –	(日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
9	6月5日 月 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	醍醐 弥太郎 Prof. Daigo	基礎と腫瘍学の融合セミナー Seminar on Basic Medical Science and Gerontology –ゲノミクス研究に基づいたがん先進医療開発 – Advanced Cancer Treatment and Precision Medicine based on Genomics Analysis	全コース選択必修科目（※第2学年配当）「基礎と腫瘍学の融合セミナー」を兼ねる（日本語・English）	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
10	6月12日 月 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	小畑 大輔 Special Contract Associate Prof. Obata	臨床医学研究総論／臨床医学総論 Clinical Research/ Clinical Medicine	高度医療人コース必修科目「臨床医学研究総論」を兼ねる 学際的医療人コース選択必修科目「臨床医学総論」を兼ねる (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
11	6月19日 月 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	柳沢 大治郎 Associate Prof. Yanagisawa	バイオインフマティクス – 生命情報科学特論 – Bioinformatics	学際的医療人コース選択必修科目「バイオインフマティクス」を兼ねる (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
12	6月26日 月 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	伊藤 靖 Prof. Itoh	パイオニアセミナー Pioneer Seminar	先端医学研究者コース必修科目「パイオニアセミナー」を兼ねる (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
13	7月4日 火 Tue.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	宇田川 潤 Prof.Udagawa 澤井 俊宏 Associate Prof. Sawai	基礎と小児科学の融合セミナー Seminar on Basic Medical Science and Pediatrics	全コース選択必修科目（※第2学年配当）「基礎と小児科学の融合セミナー」を兼ねる（日本語・English）	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
14	7月24日 月 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	漆谷 真 外 Prof Urushitani etc.	基礎と老年病学の融合セミナー Seminar on Basic Medical Science and Gerontology –神経変性疾患から紐解く老年病～臨床と病理が語る難病ALSの分子病態 –	全コース選択必修科目（※第2学年配当）「基礎と老年病学の融合セミナー」を兼ねる（日本語・English）	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
15	7月31日 月 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	依馬 正次 Prof. Ema	パイオ医療学 Biomedicine – 遺伝子組換え実験と病原体の取り扱い –（病原体等取り扱い講習会） 先端医学研究技法 Frontier Medical Research Method -オルガノイドを用いた研究-	学際的医療人コース選択必修科目「パイオ医療学」を兼ねる (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
16	8月7日 月 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	朝比奈 欣治 Associate Prof. Asahina	先端医学研究技法 Frontier Medical Research Method -オルガノイドを用いた研究-	先端医学研究者コース必修科目「先端医学研究技法」を兼ねる (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
17	9月12日（火）～ 9月15日（金）	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	伊藤 靖 Prof. Itoh	【集中講義】デクニカルセミナー [Intensive Course] Technical Seminar	全コース必修科目「デクニカルセミナー」を兼ねる (日本語・English)	実験実習支援センター等 Central Research Laboratory etc.

2023年度 授業日程表：医学総合特論、テクニカルセミナー、医学・生命倫理学概論、疫学・医療統計学概論
(2023 - 2024 Schedule: Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars, Technical Seminar, Bioethics and Medical Ethics, Fundamentals of epidemiology and medical statistics)

【注意事項：Notes】

・・・第2学年次での受講を推奨します。第1学年次の出席は、医学総合特論の一部とみなし、「基礎と臨床の融合セミナー」の単位認定のための出席とはみなされません。
It is recommended to take the course in the second academic year. The first year’s credits of “Integrated Basic and Clinical Seminar” will be counted as “Basic Science Fundamentals and Multidisciplinary S and will not be credited for “Integrated Basic and Clinical Seminar.”

開 講 日 程 Schedule		科 目 名 Subject	担 当 教 員 Instructor	授 業 題 名 Lecture title	備 考 (他の授業科目等と兼ねているもの等) Note	講 義 室 Lecture room
18	10月16日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	磯部 義明 Special Contract Prof.Isobe	医療イノベーション総論 (IKODEプログラム) Medical Innovation (Lecture)	学際的医療人コース選択必修科目「医療イノベーション総論 (講義) (IKODEプログラム)」を兼ねる (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
19	10月23日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	中川 義久 Prof.Nakagawa 大野 美紀子 Associate Prof.Ohno	基礎と内科学の融合セミナー Seminar on Basic Medical Science and Internal Medicine	全コース選択必修科目 (※第2学年配当) 「基礎と内科学の融合セミナー」を兼ねる (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
20	10月30日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	平田 多佳子 Prof.Hirata	適応免疫の動態 Dynamics of Adaptive Immunity	(日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
21	11月6日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	西 英一郎 Prof.Nishi	ひとつの分子から紐解く疾患研究 Unravelling the hub function of nardilysin in the pathogenesis of multiple diseases	(日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
22	11月13日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	三浦 克之 Prof.Miura	循環器疾患予防のための疫学的研究 Epidemiological Investigations for Cardiovascular Disease Prevention	(日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
23	11月20日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	谷 眞至 Prof.Tani	基礎と外科学の融合セミナー Seminar on Basic Medical Science and Surgery	全コース選択必修科目 (※第2学年配当) 「基礎と外科学の融合セミナー」を兼ねる (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
24	11月27日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	小畑 大輔 Special Contract Associate Prof.Obata	医療倫理学法制総論 – 臨床研究倫理と法規制 – Medical Ethics and Low	高度医療人コース必修科目「医療倫理学法制総論」を兼ねる (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
25	12月4日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	久米 真司 Prof.Kume	基礎と生活習慣病学の融合セミナー Seminar on Basic Medical Science and Lifestyle-Related Diseases	全コース選択必修科目 (※第2学年配当) 「基礎と生活習慣病学の融合セミナー」を兼ねる (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
26	12月11日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	漆谷 真 外 Prof.Urushitani etc.	ゲノムサイエンス Genome Science	学際的医療人コース選択必修科目「ゲノムサイエンス」を兼ねる (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
27	12月18日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	西村 正樹 Prof.Nishimura	医学における疾患研究を考える	(日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
28	1月15日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	目良 裕 Prof.Mera	ナノテクノロジー Nanotechnology	(日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
29	1月22日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	古荘 義雄 Prof.Furusho	ナノ科学と医用材料 Nanoscience and Medical Materials	(日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
30	1月29日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	小嶋 亜希子 Associate Prof.Kojima	イオンチャネル機能解析学 Functional analysis of ion channels in the heart	学際的医療人コース選択必修科目「イオンチャネル機能解析学」を兼ねる (日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
31	2月5日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	伊藤 靖 Prof.Itoh	鑑長類モデルを用いた感染症研究 Research on infectious diseases using a nonhuman primate model	(日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1
32	3月4日 Mon.	医学総合特論Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	矢野 裕一朗 Prof.Yano	ビッグデータとは	(日本語・English)	臨床講義室1 Clinical Lecture room 1

令和5年度 大学院医学系研究科博士課程 授業科目担当教員一覧表

【1】基盤教育群（共通必修）・基礎と臨床の融合セミナー（共通選択必修）・コース科目（コース必修）

区分	コース	授 業 科 目 名	授業形態 (講義・演習・実習の別)	年 次	期 別		単 位 数	時間数（1単位あたり、講義15h、演習15h、実習30h）	選択・必修	授 業 担 当 教 員	
					前期	後期				主担当	担当
基盤教育群	共通	医学総合特論	講義	1	通年		6	90	必修	◎西村	目良、古荘、平田、宇田川、等、扇田、朝比奈、西、三浦、中川、漆谷、谷眞、久米、醍醐、小畑、依馬、芦原、小嶋、松浦昌、柳沢、加藤、伊藤靖、矢野
		テクニカルセミナー	演習	1	通年		2	30	必修	◎伊藤靖	扇田、朝比奈
		医学・生命倫理学概論	講義	1	通年		1	15	必修	◎室寺	
		疫学・医療統計学概論	講義	1	通年		1	15	必修	◎三浦	
基礎と臨床の融合セミナー	共通	基礎と外科学の融合セミナー	演習	2	通年		2	30	選択必修	◎谷眞	目良、今井、清水猛、山本学、岡野、椎野、辻篤、村田聡、三宅
		基礎と内科学の融合セミナー	演習	2	通年		2	30	選択必修	◎中川	縣、扇田、小島秀、西、安藤、醍醐、尾松、寺島、寺田晃、大野
		基礎と小児科学の融合セミナー	演習	2	通年		2	30	選択必修	◎宇田川	丸尾、伊藤靖、内村
		基礎と老年病学の融合セミナー	演習	2	通年		2	30	選択必修	◎漆谷	宇田川、勝山、等、伊藤靖、西、西村、金田、柳沢
		基礎と生活習慣病学の融合セミナー	演習	2	通年		2	30	選択必修	◎久米	藤田
		基礎と腫瘍学の融合セミナー	演習	2	通年		2	30	選択必修	◎醍醐	平田、伊藤靖、安藤、九嶋、向所
コース科目	先端医学研究者	バイオニアセミナー	演習	1	通年		2	30	必修	◎伊藤靖	扇田、等、依馬
		先端医学研究技法	実習	1	通年		2	60	必修	◎朝比奈	小島秀
	高度医療人	臨床医学研究総論	講義	1	通年		2	30	必修	◎小畑	
		疫学・医療統計学	実習	1	通年		1	30	必修	◎原田	三浦、矢野、門田
		医療倫理学法制総論	講義	1	通年		1	15	必修	◎小畑	兼重、小島秀、一杉
	学際的医療人コース	基礎医学総論（iKODEプログラム）	講義	1	前期		1	15	選択必修	◎等	柳沢
		臨床医学総論（iKODEプログラム）	講義	1		後期	1	15	選択必修	◎小畑	
		バイオ医療学	講義	1		後期	1	15	選択必修	◎扇田	小島秀、柳沢
		ゲノムサイエンス	講義	1	前期		1	15	選択必修	◎漆谷	縣、丸尾、醍醐
		バイオインフアマティクス	講義	1		後期	1	15	選択必修	◎柳沢	目良、芦原、川北、杉本喜
		イオンチャネル機能解析学	講義	1	前期		1	15	選択必修	◎小嶋	
		医療イノベーション総論（iKODEプログラム）	講義	1	通年		1	15	選択必修	◎磯部	杉山
			実習	1	通年		1	30	選択必修	◎磯部	谷徹、杉本喜、杉山
		感染症学総論	講義	1	通年		1	15	選択必修	◎伊藤靖	安藤、中野、旦部

令和5年度 大学院医学系研究科博士課程 授業科目担当教員一覧表

【2】選択科目－先端医学研究者コース（選択）

区分	コース	授 業 科 目 名	授業形態 (講義・演習・実習の別)	年 次	期 別		単 位 数	時間数（1単位あたり、講義15h、演習15h、実習30h）	選 択 ・ 必 修	授 業 担 当 教 員	
					前期	後期				主担当	担当
選 択 科 目	先 端 医 学 研 究 者 コ ー ス	医療画像学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎渡邊	杉本喜、園田、永谷
		核磁気共鳴医学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎椎野	
		細胞生理学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎平田	目良、縣、扇田、寺田晃
		分子細胞生物学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎扇田	平田、縣、伊藤靖、依馬、寺田晃、佐藤
		遺伝子情報学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎縣	平田、扇田、寺田晃
		分子神経形態学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎勝山	宇田川、西村、金田、松尾
		神経科学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎寺島	勝山、清水猛、西村、金田
		先端法医学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎一杉	中村
		神経病態学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎柳沢	丸尾、西村、寺島、椎野、多賀
		分子精神科学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎尾関	角谷
		睡眠精神医学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎尾関	角谷
		視覚病態生理学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎大路	西信、澤田、柿木
		免疫制御学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎伊藤靖	平田、安藤、清水猛、藤本
		内分泌制御学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎小島秀	
		生殖生理学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎依馬	
		周産期病態学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎村上	辻俊
		発生工学・制御学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎等	勝山、依馬、岡野、金田、佐藤
		幹細胞学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎等	宇田川、勝山、依馬、金田、佐藤
		腫瘍医学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎醍醐	扇田、向所、茶野、森田真、村田聡
		病理学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎伊藤靖	向所
		実験動物学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎依馬	
		脳機能制御学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎辻篤	西村、寺島、椎野、深見
		循環器制御学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎中川	鈴木、芦原、大西、杉本喜、辻田、高島
		プライマリリーケア医学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎杉本俊	
		呼吸器学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎中野	伊藤靖、小川、山口将
		口腔顎機能制御学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎越沼	清水猛
		頭頸部制御外科学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎清水猛	大脇、戸嶋、神前
		消化器制御学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎安藤	谷眞、向所、村田聡
		皮膚科学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎藤本	加藤、高橋
		疼痛治療学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎北川	
		腎・泌尿器制御学実習	実習	2～3	通 年		4（2・2）	120	選 択	◎上仁	影山、久米

		分子薬理学実習	実習	2～3	通年	4（2・2）	120	選 択	◎西	大野、辻田
		薬剤学実習	実習	2～3	通年	4（2・2）	120	選 択	◎森田真	池田
		疫学研究実習	実習	2～3	通年	4（2・2）	120	選 択	◎原田	三浦、矢野、門田
		ジェンダー論実習	実習	2～3	通年	4（2・2）	120	選 択	※令和5年度開講しない	
		栄養治療学実習	実習	2～3	通年	4（2・2）	120	選 択	◎馬場	谷真、伊藤明
		再生修復医学実習	実習	2～3	通年	4（2・2）	120	選 択	※令和5年度開講しない	
		神経薬理学実習	実習	2～3	通年	4（2・2）	120	選 択	◎柳沢	

令和5年度 大学院医学系研究科博士課程 授業科目担当教員一覧表

【3】選択科目－高度医療人コース（選択）

区分	コース	授 業 科 目 名	授業形態 (講義・演習・実習の別)	年 次	期 別		単 位 数	時間数（1単位あたり、講義15h、演習15h、実習30h）	選択・必修	授 業 担 当 教 員	
					前期	後期				主担当	担当
選択科目	高度医療人コース	臨床法医学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎一杉	中村
		循環器・呼吸器内科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎中野	中川、芦原、杉本喜、大西、小川、山口将
		消化器・血液内科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎安藤	村田誠、南口、稲富、伊藤明
		内分泌代謝・腎臓内科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎久米	藤田
		神経内科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎漆谷	山川、寺島
		小児科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎丸尾	多賀、澤井、柳
		精神医学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎尾関	角谷
		皮膚科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎藤本	加藤、高橋
		消化器・乳腺・一般外科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎谷眞	清水智、梅田、村田聡、三宅
		心臓血管・呼吸器外科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎鈴木	花岡、大塩、高島
		整形外科実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎今井	川崎、森、児玉、彌山
		脳神経外科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎辻篤	椎野、深見
		耳鼻咽喉科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎清水猛	大脇、神前、戸嶋
		産科学・婦人科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎村上	辻
		泌尿器科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎上仁	影山
		眼科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎大路	西信、澤田、柿木
		麻酔学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎北川	小嶋
		放射線医学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎渡邊	小島秀、園田、河野、永谷
		家庭医療学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎安藤	杉本俊
		歯科口腔外科学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎越沼	
		臨床腫瘍学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎醍醐	安藤、九嶋、向所、伊藤靖、茶野、森田真、南口
		臨床検査医学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎九嶋	茶野、森谷
		救急集中治療医学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎塩見	辻田
		病理診断学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎九嶋	向所、伊藤靖、森谷
		臨床薬剤学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎森田真	池田
		先端臨床検査技術実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選択	◎九嶋	茶野

令和5年度 大学院医学系研究科博士課程 授業科目担当教員一覧表

【4】選択科目－学際的医療人コース（選択）

区分	コース	授業科目名	授業形態 (講義・演習・実習の別)	年次	期 別		単 位 数	時間数（1単位あたり、講義15h、演習15h、実習30h）	選択・必修	授 業 担 当 教 員	
					前期	後期				主担当	担当
選択科目	学際的医療人コース	生体画像工学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎杉本喜	
		生体情報工学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎杉本喜	目良
		産業医学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎北原	
		解剖生理学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎宇田川	岡野、金田、内村
		再生医学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎等	依馬、寺島
		生殖機能制御学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎村上	辻俊
		遺伝子工学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎扇田	平田、縣、佐藤、寺島
		学際的疼痛治療学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎北川	川崎
		システム生理学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	※令和5年度開講しない	
		組織工学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎今井	小島秀、川崎、森
		生体材料学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎今井	扇田、小島秀、谷徹
		医用光工学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎大路	西信、澤田、柿木
		ロボティクス実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎影山	小島秀、杉本喜
		人工臓器学実習	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎影山	杉本喜
		神経科学研究	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎柳沢	西村、椎野
		神経薬理学研究	実習	2～3	通年		4（2・2）	120	選 択	◎柳沢	

令和5年度 大学院医学系研究科博士課程 授業科目担当教員一覧表

がん専門医療人養成コース

区分	コース	授 業 科 目 名	授業形態（講義・演習・実習の別）	年 次	期 別		単 位 数	時間数（1単位あたり、講義15h、演習15h、実習30h）	選択・必修	授 業 担 当 教 員	
					前期	後期				主担当	担当
全コース	共通必修科目	がん基礎学	講義	1	通年		2	30	必修	◎醍醐	谷眞、渡邊
		ゲノム医学	講義	1	通年		2	30	必修	◎醍醐	
		緩和ケア学	講義	1	通年		2	30	必修	◎醍醐	谷眞
	共通選択科目	腫瘍薬剤学	講義	1	通年		2	30	選択	◎森田真	醍醐、池田
		放射線腫瘍学	講義	1	通年		2	30	選択	◎渡邊	河野
		生命倫理学	講義	1	通年		2	30	選択	◎室寺	
		医療統計学	演習	1	通年		2	30	選択	◎原田	三浦、矢野、門田
先進的がん医療開発と個別化医療を担うゲノム医療従事者養成コース	コース必修科目	がん薬物療法学総論	講義	1	通年		4	60	必修	◎醍醐	西英、目片、伊藤靖、村田聡
		がん薬物療法学特論	演習	1	通年		4	60	必修	◎醍醐	西英、目片、伊藤靖、村田聡
		がん薬物療法学実習	実習	2～3	通年		8(4・4)	240	必修	◎醍醐	西英、目片、伊藤靖、村田聡
	コース選択科目	臨床腫瘍学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	中野、花岡
		がんゲノム医療学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	谷眞
		遺伝統計学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	川北
		バイオインフーマティクス実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	川北
		呼吸器内科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎中野	小川、山口将
		血液内科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎村田誠	醍醐、南口、河原
		消化器内科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎安藤	醍醐、伊藤明
		小児科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎丸尾	多賀
		皮膚科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎藤本	加藤、（立花客員教授）
		消化器外科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎谷眞	村田聡、三宅、梅田
		乳腺・一般外科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎梅田	谷眞、清水智
		呼吸器外科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎花岡	
		整形外科実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎今井	
		脳神経外科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎辻篤	深見
		耳鼻咽喉科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎清水猛	大脇、戸嶋、神前
		産科学・婦人科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎村上	辻
		泌尿器科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎影山	
		眼科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎大路	西信、澤田、柿木
		放射線科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎渡邊	園田、河野、永谷
		放射線治療学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎渡邊	河野
		がん性疼痛治療学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎北川	
		歯科口腔外科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎越沼	家森
担 個 小 う 別 児 薬 化 血 剤 が 液 師 ん の 養 薬 診 成 療 断 コ 法 を ー ス	コース必修科目	臨床腫瘍薬剤学総論	講義	1	通年		4	60	必修	◎森田真	池田
		臨床腫瘍薬剤学特論	演習	1	通年		4	60	必修	◎森田真	池田
		臨床腫瘍薬剤学実習	実習	2～3	通年		8(4・4)	240	必修	◎森田真	池田
	コース選択科目	臨床腫瘍学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	中野、花岡
		がんゲノム医療学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	谷眞
		遺伝統計学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	川北
		バイオインフーマティクス実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	川北
医療従事者養成コース	コース必修科目	小児科学総論	講義	1	通年		4	60	必修	◎丸尾	多賀
		小児科学特論	演習	1	通年		4	60	必修	◎丸尾	多賀
		小児科学実習	実習	2～3	通年		8(4・4)	240	必修	◎丸尾	多賀
	コース選択科目	がん薬物療法学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	西英、目片、伊藤靖、村田聡
		臨床腫瘍学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	中野、花岡
		がんゲノム医療学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	谷眞
		遺伝統計学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	川北
		血液内科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎村田誠	醍醐、南口、河原

令和5年度 大学院医学系研究科博士課程 授業科目担当教員一覧表

がん専門医療人養成コース

区分	コース	授 業 科 目 名	授業形態（講義・演習・実習の別）	年 次	期 別		単 位 数	時間数（1単位あたり、講義15h、演習15h、実習30h）	選択・必修	授 業 担 当 教 員	
					前期	後期				主担当	担当
ライフステージに応じたがん集学的治療と全人的診療を担う医療従事者養成コース	コース必修科目	がん病態制御学総論	講義	1	通年		4	60	必修	◎谷眞	清水智、三宅
		がん病態制御学特論	演習	1	通年		4	60	必修	◎谷眞	清水智、梅田、三宅
		がん病態制御学実習	実習	2～3	通年		8(4・4)	240	必修	◎谷眞	村田聡、三宅
	コース選択科目	生体物理医学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎谷眞	目良、成瀬
		免疫学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎伊藤靖	平田、縣
		遺伝子工学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎扇田	平田、縣、小島秀、寺島、佐藤朗
		組織工学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎今井	川崎、森幹
		呼吸器内科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎中野	小川、山口将
		血液内科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎村田誠	醍醐、南口、河原
		消化器内科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎安藤	醍醐、伊藤明
		小児科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎丸尾	多賀
		皮膚科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎藤本	加藤、（立花客員教授）、高橋
		消化器外科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎谷眞	村田聡、三宅
		乳腺・一般外科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎梅田	谷眞、清水智
		呼吸器外科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎花岡	
		整形外科実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎今井	
		脳神経外科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎辻篤	深見
		耳鼻咽喉科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎清水猛	大脇、戸嶋、神前
		産科学・婦人科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎村上	辻
		泌尿器科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎影山	
		眼科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎大路	西信、澤田、柿木
		放射線科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎渡邊	園田、永谷
		放射線治療学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎渡邊	河野
		麻酔科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎北川	小嶋
		歯科口腔外科学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎越沼	家森
地域の放射線治療を支援する医療従事者養成コース	コース必修科目	放射線科学総論	講義	1	通年		4	60	必修	◎渡邊	園田、河野
		放射線科学特論	演習	1	通年		4	60	必修	◎渡邊	園田
		放射線科学実習	実習	2～3	通年		8(4・4)	240	必修	◎渡邊	園田、永谷
	コース選択科目	放射線治療学実習	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎渡邊	河野
		放射線腫瘍学・画像応用治療学	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎渡邊	河野
		臨床腫瘍学	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	
		高精度放射線治療学	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎渡邊	河野
		基礎腫瘍学	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	
		腫瘍診断学	実習	2～3	通年		4(2・2)	120	選択	◎醍醐	

令和5年度 大学院医学系研究科博士課程 授業科目担当教員一覧表

NCD疫学リーダーコース（NCD Epidemiology Leader’s Course）

区分	コース	授業科目名		授業形態 (講義・演習・実習の別)	年次	期別		単位数	時間数（1単位あたり、講義15h、演習15h、実習30h）	選択・必修	授業担当教員	
						前期	後期				主担当（Chief）	担当
コア領域	ク 公衆衛生	公衆衛生学概論	Fundamental of public health	講義	1	通年		2	30	必修	◎三浦 Prof.Miura	
		保健医療行政論	Health administration and public health law	講義	2	通年		2	30		◎三浦 Prof.Miura	
	ク 医学統計	疫学研究概論	Fundamental of epidemiologic methods	講義	1	通年		2	30	必修	◎矢野 Prof.Yano	
		臨床試験概論	Fundamental of clinical trials	講義	1	通年		2	30		◎矢野 Prof.Yano	西
		生物統計学概論	Fundamental of medical statistics	講義	1	通年		2	30		◎原田 Associate Prof.Harada	
	ク NCD疫学	NCD疫学総論	Epidemiology of NCDs	講義	1	通年		4	60	必修	◎門田 Associate Prof.Harada	中川、中野、安藤、清水猛、影山、醍醐、小川、有馬（学外）、大野（学外）、関川（学外）、松下（学外）
		社会疫学総論	Social epidemiology	講義	2	通年		2	30	選択	◎三浦 Prof.Miura	西信（学外）
	ク 国際交流	アジア文化・倫理の理解	Workshop for discovering Asian culture and ethics	演習	1	通年		2	30	必修	◎予定教員	
		発表技法と熟議	Presentation and debates	演習	2	通年		2	30		◎三浦 Prof.Miura	矢野、門田、原田
支援領域	ク NCD臨床	NCD臨床総論	Clinical medicine of NCDs	講義	1	通年		2	30	選択必修	◎中川 Prof.Nakagawa	中野、安藤、漆谷、久米、谷眞、醍醐、西村、花岡、辻薦、藤田
	ク 多分野横断	基礎医学から地域医療への展開	Medical innovation from bench to community	講義	2	通年		2	30		◎扇田 Prof.Ogita	鈴木、渡辺、芦原、園田、杉本喜、宮松、伊藤、荻田、宇田川、等、縣、小島秀、西、一杉
		産業医学	Industrial Health	演習	1	通年		1	15		◎北原 Special Contract Associate Prof.Kitahara	
実習	研究計画の鍛錬		Thesis preparation	実習	2	通年		4	120	必修	◎指導教員 Supervisor	三浦、矢野、門田、原田
	学外研究機関短期研修		Global research training	実習	2	通年		2	60	選択	◎指導教員 Supervisor	三浦、矢野、門田、原田
	健康関連産業研修		Research and development in the health related industries	実習	2	通年		2	60		◎指導教員 Supervisor	中嶋（学外）、貝瀬（学外）
	アジア・フィールドワーク		Fieldwork at Asia-pacific region	実習	3	通年		2	60		◎指導教員 Supervisor	三浦、矢野、門田、原田
	学外武者修行		Presentaion at academic conferences	実習	3	通年		4	120	必修	◎指導教員 Supervisor	

令和5年度 大学院医学系研究科博士課程 授業科目担当教員一覧表

Forensic Generalist, Forensic Specialist 養成コース

(地域で活躍する法医臨床医・法歯科医養成コース)

コース	科目名	授業形態 (講義・演習・実習)	配当学年	期別		単位	選択/ 必修	授業担当教員	
				前期	後期			主担当	担当
全 共 通 コ ー ス	臨床法医学実習	実習	1	通年		4	必修	一杉	中村
	個人識別学	講義	1	通年		4	必修	中村	一杉
	法医画像診断学	演習	1	通年		4	必修	中村	一杉
法 医 コ ー ス 臨 床 医 養 成	生体鑑定学実習	実習	2~3	通年		4	必修	一杉	中村
	グリーフケア実習	実習	2~3	通年		4	必修	一杉	中村
	法医病理学実習	実習	2~3	通年		4	選択	一杉	中村
	法中毒学	講義	2~3	通年		4	選択	中村	一杉
	エキスパート法医学実習	実習	2~3	通年		4	選択	一杉	中村
	犯罪学特論	講義	2~3	通年		2	選択	中村	一杉
法 歯 科 医 養 成 コ ー ス	顎顔面外傷実習	実習	2~3	通年		4	必修	一杉	中村
	法歯学	実習	2~3	通年		4	必修	一杉	中村
	生体鑑定学実習	実習	2~3	通年		4	選択	中村	一杉
	DNA鑑定実習	実習	2~3	通年		4	選択	中村	一杉
	法中毒学	講義	2~3	通年		4	選択	中村	一杉
	犯罪学特論	講義	2~3	通年		2	選択	中村	一杉
法 医 コ ー ス 専 門 医 養 成	エキスパート法医学実習	実習	2~3	通年		4	必修	一杉	中村
	法中毒学	講義	2~3	通年		4	必修	中村	一杉
	外傷学特論	講義	2~3	通年		4	選択	一杉	中村
	法医病理学実習	実習	2~3	通年		4	選択	一杉	中村
	DNA鑑定実習	実習	2~3	通年		4	選択	中村	一杉
	法医臨床検査実習	実習	2~3	通年		2	選択	一杉	中村

Subjects, Number of Credits and Instructors 2023- 2024 in Doctoral Program

Grouping	Course	Subject	Method (Lecture / Exercise / Practice)	Grade	Semester		Credits	Hours (Lecture:15h /Exercise:15h /Practice:30h par 1 credit)	Required / Semi-Obligatory / Elective	Instructors	
					First	Second				Chief	Others
Core Curriculum	Common for All Courses	Basic Science Fundamentals & Multidisciplinary Seminars	Lecture	1	All		6	90	Required	◎Nishimura	Mera, Furusho, Hirata, Udagawa, Hitoshi, Ogita, Asahina, Nishi, Miura, Nakagawa, Urushitani, M.Tani, Kume, Daigo, Obata, Ema, Ashihara, A.Kojima M.Matsuura, Yanagisawa,Kato, Y.Itoh, Yano
		Technical Seminar	Exercise	1	All		2	30	Required	◎Y.Itoh	Ogita, Asahina
		Bioethics and Medical Ethics	Lecture	1	All		1	15	Required	◎Muroji	
		Fundamentals of Epidemiology and Medical Statistics	Lecture	1	All		1	15	Required	◎Miura	
Integrated Basic and Clinical Seminar	Common for All Courses	Seminar on Basic Medical Science and Surgery	Exercise	2	All		2	30	Semi-Obligatory	◎M.Tani	Mera, Imai, T.Shimizu, G.Yamamoto, Okano, Shiino, A.Tsuji, S.Murata,Miyake
		Seminar on Basic Medical Science and Internal Medicine	Exercise	2	All		2	30	Semi-Obligatory	◎Nakagawa	Agata, Ogita, H.Kojima, Nishi, Andoh, Maegawa, Daigo, Omatsu,Terashima, K.Terada, Ohno
		Seminar on Basic Medical Science and Pediatrics	Exercise	2	All		2	30	Semi-Obligatory	◎Udagawa	Sawai, Y.Itoh, Uchimura
		Seminar on Basic Medical Science and Gerontology	Exercise	2	All		2	30	Semi-Obligatory	◎Urushitani	Udagawa, Katsuyama, Hitoshi, Y.Itoh, Nishi, Nishimura, Kaneda, Yanagisawa
		Seminar on Basic Medical Science and Lifestyle-Related Diseases	Exercise	2	All		2	30	Semi-Obligatory	◎Kume	Fujita
		Seminar on Basic Medical Science and Oncology	Exercise	2	All		2	30	Semi-Obligatory	◎Daigo	Hirata, Y.Itoh, Andoh, Kushima, Mukaisho
Course Subjects	Advanced	Pioneer Seminar	Exercise	1	All		2	30	Required	◎Y.Itoh	Ogita, Hitoshi, Ema
		Frontier Medical Research Method	Practice	1	All		2	60	Required	◎Asahina	H.Kojima
	Clinicians	Clinical Research	Lecture	1	All		2	30	Required	◎Obata	
		Skills for Epidemiology and Medical Statistics	Practice	1	All		1	30	Required	◎Harada	Miura, Yano, Kadota
		Medical Ethics and Low	Lecture	1	All		1	15	Required	◎Obata	Kaneshige, H.Kojima, Hitosugi
	Interdisciplinary Medical Science and Innovation Course	Basic Medical Science	Lecture	1	First		1	15	Semi-Obligatory	◎Hitoshi	Yanagisawa
		Clinical Medicine	Lecture	1		Second	1	15	Semi-Obligatory	◎Obata	
		Biomedicine	Lecture	1		Second	1	15	Semi-Obligatory	◎Ogita	H.Kojima, Yanagisawa
		Genome Science	Lecture	1	First		1	15	Semi-Obligatory	◎Urushitani	Agata, Maruo, Daigo
		Bioinformatics	Lecture	1		Second	1	15	Semi-Obligatory	◎Yanagisawa	Mera, Ashihara, Kawakita, Y.Sugimoto
		Functional Analysis of Ion Channel	Lecture	1	First		1	15	Semi-Obligatory	◎A.Kojima	
		Medical Innovation (iKODE Program)	Lecture	1	All		1	15	Semi-Obligatory	◎Isobe	Sugiyama
			Practice	1	All		1	30	Semi-Obligatory	◎ Isobe	T.Tani, Y.Sugimoto, Sugiyama
		Infectious diseases	Lecture	1	All		1	15	Semi-Obligatory	◎Y.Itoh	Andoh, Nakano, Tanbe
Elective Subjects	Advanced Medical Science Course	Medical Imaging	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Watanabe	Y.Sugimoto, Sonoda, Nagatani
		Biomedical Magnetic Resonance	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Shiino	
		Cellular Physiology Practice	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Hirata	Mera, Agata, Ogita, K.Terada
		Practice on Molecular Cell Biology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Ogita	Hirata, Agata, Y.Ito, Ema, K.Terada, A Sato, Terashima
		Regulation of Gene Expression	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Agata	Hirata, Ogita, K.Terada
		Molecular Neuroanatomy	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Katsuyama	Udagawa, Nishimura, Kaneda, Matsuo
		Neuroscience Practice	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Terashima	Katsuyama, T.Shimizu, Nishimura, Kaneda
		Advanced Legal Medicine	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Hitosugi	Nakamura
		Neuropathology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Yanagisawa	Maruo, Nishimura, Terashima, Shiino, Taga
		Moelcular Psychiatry	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Ozeki	Kadotani
		Practice of Sleep Psychiatry	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Ozeki	Kadotani
		Visual Pathophysiology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Ohji	Saishin, Sawada, Kakinoki

Subjects, Number of Credits and Instructors 2023- 2024 in Doctoral Program

Grouping	Course	Subject	Method (Lecture / Exercise / Practice)	Grade	Semester		Credits	Hours (Lecture:15h /Exercise:15h /Practice:30h par 1 credit)	Required / Semi-Obligatory / Elective	Instructors	
					First	Second				Chief	Others
Elective Subjects	Advanced Medical Science Course	Practice of Immune Regulation	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Y.Itoh	Hirata, Andoh, T.Shimizu, Fujimoto
		Endocrinology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎H.Kojima	
		Reproductive Physiology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Ema	
		Perinatology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Murakami	Tsuji
		Developmental Biotechnology Practice	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Hitoshi	Katsuyama, Ema, Okano, Kaneda, A.Sato
		Stem Cell Biology Practice	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Hitoshi	Udagawa, Katsuyama, Ema, Kaneda, A.Sato
		Practice Medical Oncology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Daigo	Ogita, Mukaisho, Chano, S.Morita, S.Murata
		Practice for Pathological Approaches to Diseases	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Y.Itoh	Mukaisho
		Laboratory Animal Science Practice	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Ema	
		Brain Function Control Practice	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎A.Tsuji	Nishimura, Terashima, Shiino, Fukami
		Cardiology Control	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Nakagawa	Suzuki, Ashihara, Ohnishi, Y.Sugimoto, Tsujita, Takashima
		Primary Care Medicine	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎T.Sugimoto	
		Practical Training in Respiratory Medicine	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Nakano	Y.Itoh, E.Ogawa, Y.Yamaguchi
		Oral and Maxillofacial Surgery	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Koshinuma	T.Shimizu
		Surgical Management of Head and Neck Lesions	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎T.Shimizu	Owaki, Tojima, Kohzaki
		Gastroenterology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Andoh	M.Tani, Mukaisho, S.Murata
		Skin Transplantation and Reconstructive Surgery	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Fujimoto	Kato, Takahashi
		Pain Medicine	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Kitagawa	
		Renal and Urologic Disease Control Practice	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Johnin	Kageyama, Kume
		Molecular Pharmacology Practice	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎E.Nishi	Ohno, Tsujita
		Pharmaceutics	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎S.Morita	Ikeda
		Practice of Epidemiologic Research	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Harada	Miura, Yano, Kadota
		Practice on Gender	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	The subject is not conducted in 2023.	
		Nutritional Science	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Bamba	M.Tani, A.Ito
		Practice for Stem Cell Biology and Regenerative Medicine	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	The subject is not conducted in 2023.	
		Neuropharmacology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Yanagisawa	
	Advanced Medicine for Clinicians Course	Legal Medicne	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Hitosugi	Nakamura
		Cardiovascular and Respiratory Medicine	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Nakano	Nakagawa, Ashihara, Y.Sugimoto, Ohnishi, E.Ogawa, Y.Yamaguchi
		Gastroenterology and Hematology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Andoh	Murata, Minamiguchi, Inatomi, A.Ito
		Diabetology, Endocrinology and Nephrology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Kume	Fujita
		Neurology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Urushitani	Yamakawa, Terashima
		Pediatrics (Pediatric Neurology, Epileptology)	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Maruo	Taga, Sawai, Yanagi
		Psychiatry	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Ozeki	Kadotani

Subjects, Number of Credits and Instructors 2023 - 2024 in Doctoral Program

Grouping	Course	Subject	Method (Lecture / Exercise / Practice)	Grade	Semester		Credits	Hours (Lecture:15h /Exercise:15h /Practice:30h par 1 credit)	Required / Semi-Obligatory / Elective	Instructors	
					First	Second				Chief	Others
Elective Subjects	Advanced Medicine for Clinicians Course	Dermatology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Fujimoto	Kato, Takahashi
		Advanced Studies of Gastrointestinal Surgery & General Surgery	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎M.Tani	T.Shimizu, Umeda, S.Murata, Miyake
		Cardiovascular and Thoracic Surgery	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Suzuki	Hanaoka, Ohshio, Takashima
		Orthopaedic Surgery	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Imai	Kawasaki, K.Mori, Kodama, Yayama
		Neurosurgical Practice	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎A.Tsuji	Shiino, Fukami
		Otorhinolaryngology-Head and Neck Surgery	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎T.Shimizu	Owaki, Kohzaki ,Tojima
		Obstetrics and Gynecology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Murakami	Tsuji
		Urologic Practice	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎ Johnin	Kageyama
		Ophthalmology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Ohji	Saishin, Sawada, Kakinoki
		Anesthesiology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Kitagawa	A.Kojima
		Radiology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Watanabe	H.Kojima, Sonoda, Kohno, Nagatani
		Family Medicine	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Andoh	T.Sugimoto
		Oral and Maxillofacial Surgery	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Koshinuma	
		Clinical Cancer	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Daigo	Andoh, Kushima, Mukaisho, Y.Itoh, Chano, S.Morita, Minamiguchi
		Clinical Laboratory Medicine	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Kushima	Chano, Moritani
		Critical and Intensive Care Medicine	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Shiomi	Tsujita
		Diagnostic Pathology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Kushima	Mukaisho, Y.Itoh, Moritani
		Clinical Pharmacy	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎S.Morita	Ikeda
		Advanced Laboratory Examination Technology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Kushima	Chano
	Interdisciplinary Medical Science and Innovation Course	Practice in Medical Imaging Technology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Y.Sugimoto	
		Practice on Bioinformatics	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Y.Sugimoto	Mera
		Industrial Health	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Kitahara	
		Developmental and Functional Anatomy	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Udagawa	Okano, Kaneda, Uchimura
		Regenerative Medicine Practice	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Hitoshi	Ema, Terashima
		Reproductive Technology	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Murakami	Tsuji
		Genetic Engineering Practice	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Ogita	Hirata, Agata, A.Sato Terashima
		Interdisciplinary Pain Management	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Kitagawa	Kawasaki
		System Physiology Practice	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	The subject is not conducted in 2023.	
		Tissue Engineering for Bone, Cartilage and soft Tissue	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Imai	H.Kojima, Kawasaki, K.Mori
		Biomaterial	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Imai	Ogita, H.Kojima, T.Tani
		Medical Optical Engineering	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Ohji	Saishin, Sawada, Kakinoki
		Robotics	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Kageyama	H.Kojima, Y.Sugimoto
		Artificial Organs and Tissue Enginnering	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Kageyama	Y.Sugimoto
		Neuroscience Research	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Yanagisawa	Nishimura, Shiino
		Neuropharmacological research	Practice	2～3	All		4 (2・2)	120	Elective	◎Yanagisawa	

授業科目及び単位数表

別表 1-1

【先端医学研究者コース、高度医療人コース、学際的医療人コース】

科目区分		修得単位数			備 考
		必修	選択必修	選択	
共通	基盤教育群	1 0 単位	—	—	・全コース共通必修科目から10単位 ・全コース共通選択必修科目から4単位以上 ・コース科目の必修及び選択必修科目から4単位 ・各コースの選択科目から12単位以上
	基礎と臨床の融合セミナー	—	4単位以上	—	
コース科目		4 単位		—	
選択科目		—	—	1 2 単位以上	
合 計		3 0 単位以上			

【高度医療人コース（がん専門医療人養成コース）】

コース・科目区分		修得単位数			備 考
		必修	選択必修	選択	
全コース	必修科目	6 単位	—	—	・全コース必修科目から6単位 ・全コース共通選択科目から4単位以上 ・当該養成コース、コース必修科目から16単位 ・当該養成コース、コース選択科目から4 単位以上
	共通選択科目	—	4単位以上	—	
当該養成 コース	コース必修科目	16単位		—	
	コース選択科目	—	—	4単位以上	
合 計		3 0 単位以上			

【高度医療人コース（地域で活躍する Forensic Generalist, Forensic Specialistの養成コース）】

コース	修得単位数			備 考
	必修	選択必修	選択	
全コース共通	12単位	—	—	・全コース共通必修科目から12単位 ・当該養成コース必修科目から8単位 ・当該養成コース選択科目から10単位以上
当該養成コース	8単位		10単位以上	
合 計	3 0 単位以上			

【NCD疫学リーダースコース】

領域	修得単位数			備 考
	必修	選択必修	選択	
コア領域	18単位	—	—	・コア領域の必修科目から18単位 ・支援領域の選択必修科目から2単位 ・実習の必修科目から8単位 ・実習の選択科目から2単位以上
支援領域	—	2単位	—	
実習	8単位	—	2単位以上	
合 計	30単位以上			

2020 年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」

医療データサイエンスを基盤とするグローバルリーダー育成プログラム

本学が実施してきた博士課程教育リーディングプログラム「アジア非感染性疾患（NCD）超克プロジェクト」の教育プログラムと先行する国費外国人留学生（特別枠）「発展型アジア非感染性疾患（NCD）超克 SUMS 留学生プログラム」を発展させ、本学の得意とする疫学、医療統計、evidence-based-medicine に AI などの最先端の医療データサイエンスの知識と技術をもって、医療および医学研究に貢献する国際的なリーダーを養成することを目的とする。とりわけ、これまで実績のあるアジア地域に焦点をあてて、優秀な留学生を確保するとともに、日本人学生と切磋琢磨することで「アジア地域の医療・保健分野を牽引するリーダー」を育成する。本プログラムは、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大を受けて、本学の強みである疫学、データサイエンス、先端医学研究を非感染性疾患（NCD）から感染症（CD）分野にも展開するものであり、アジア諸国からの強い要望に応える取り組みである。

本プログラムの留学生は、第 1 年次から 2 年次にかけて NCD 疫学リーダーコースのコア領域と学際的医療人コースの医学総合特論、テクニカルセミナー、バイオインフォマティクスのほか、感染症学総論や NCD 疫学総論のカリキュラムを受講する。コア領域では、公衆衛生学概論、疫学研究概論、生物統計学概論、アジア文化・倫理の理解などの講義・演習を日本人学生とともに受講する。医学総合特論では、感染症学、微生物・ウイルス学および生活習慣病研究などの感染性疾患と非感染性疾患の知識・技術を体得させる。加えて、留学生および地元企業の双方から要望の高かった日本語教育を受講させる。

第 2 年次において研究基礎力試験（QE）を受け、修了までのカリキュラムを半分終えた時点での能力を測ることで質の保証を行う。QE に合格した後はそれぞれのテーマで研究に従事し、博士論文を作成する。また、海外に加え地元企業等にもインターンシップを行うこととし、海外のみならず地元企業への就職の支援を行う。

学位を取得し、母国へ帰国した後には本学で学んだ高度な医学知識や医療技術を生かし、本プログラムの支援事業に携わる。その状況を本学教員が現地に出向き評価し、本学との学術交流協定校の意見を取り入れて改善する。地元企業を含め日本の企業や大学等へ就職した卒業生には、母国と日本をつなぐ架け橋として活躍して頂く。双方向性の国際教育を通して、アジア地域や世界の医学・医療と NCD 克服に貢献し、牽引していく人材を育成する。

医療データサイエンスを基盤とするグローバルリーダー育成プログラム

区分	コース	授 業 科 目 名	授業形態（講義・演習・実習の別）	年 次	期 別		単位数	時間数（1単位あたり、講義15h、演習15h、実習30h）	選択・必修	修得単位数	
					前期	後期				必修	選択
基盤教育群	共通	医学総合特論	講義	1	通年		6	90	必修	8単位	8単位以上
		テクニカルセミナー	演習	1	通年		2	30	必修		
		医学・生命倫理学概論	講義	1	通年		1	15	選択		
		疫学・医療統計学概論	講義	1	通年		1	15	選択		
コース科目	学際的医療人コース	基礎医学総論（iKODEプログラム）	講義	1	前期		1	15	選択	2単位	
		臨床医学総論（iKODEプログラム）	講義	1		後期	1	15	選択		
		バイオ医療学	講義	1		後期	1	15	選択		
		ゲノムサイエンス	講義	1	前期		1	15	選択		
		バイオインフォマティクス	講義	1		後期	1	15	必修		
		イオンチャネル機能解析学	講義	1	前期		1	15	選択		
		医療イノベーション総論（iKODEプログラム）	講義	1	通年		1	15	選択		
			実習	1	通年		1	30	選択		
		感染症学総論	講義	1	通年		1	15	必修		
NCD疫学リーダーコース コア領域	ク 公衆衛生	公衆衛生学概論	講義	1	通年		2	30	必修	12単位	
		保健医療行政論	講義	2	通年		2	30	選択		
	ク 医学統計	疫学研究概論	講義	1	通年		2	30	必修		
		臨床試験概論	講義	1	通年		2	30	選択		
		生物統計学概論	講義	1	通年		2	30	必修		
	学 NCD ク ラ ス 疫	NCD疫学総論	講義	1	通年		4	60	必修		
		社会疫学総論	講義	2	通年		2	30	選択		
	ク 国際 ラ 交 ス 流	アジア文化・倫理の理解	演習	1	通年		2	30	必修		
		発表技法と熟議	演習	2	通年		2	30	選択		
										22単位	8単位以上

医療データサイエンスを基盤とするグローバルリーダー育成プログラム

滋賀医科大学の得意とする最先端の医療データサイエンスの知識と技術をもって、
医療および医学研究に貢献する国際的なリーダーを養成

学位審査（外部評価委員も加え、10名の審査員で実施）

3,4年
NCD及びCDの病態解明、診断、治療法の開発
選択科目（研究および論文作成）
8単位

地元企業での
インターン
留学生特別
プログラム

研究基礎力試験（QE：学力・研究力を図る試験）

日本語教育

NCD疫学リーダーコースコアカリキュラム

1,2年

公衆衛生学概論 2単位	疫学研究概論 2単位	生物統計学概論 2単位
NCD疫学総論 4単位	アジアの文化・倫理の理解 2単位	

学際的医療人コース

バイオインフォマティクス 1単位	感染症学総論 1単位
医学総合特論 6単位	テクニカルセミナー 2単位

教員の主な研究内容等

(令和5年3月31日 現在)

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
生命科学講座	物理学	教授	目 良 裕	1. ナノ物質、ナノ構造、表面の研究 2. ナノ光吸収分光法の開発 3. 上記テーマの医学応用
		准教授	成 瀬 延 康	1. ナノ物質や表面、バイオマテリアルの光物性研究 2. 回折法、顕微鏡法、分光法を駆使した材料物性研究 3. 地球環境科学、農業、防災、医療に資する物理研究 4. 科学教育に関する研究
	化学	教授	古 莊 義 雄	1. 超分子化学を基盤とする医用材料の開発 2. 新規な遺伝子ベクターおよびDDSの開発 3. 合成化学的手法に基づく核酸医薬の開発
	生物学	教授	平 田 多佳子	1. 免疫細胞の生体内移動の分子機構の解析 2. リンパ球の皮膚・粘膜浸潤機構の解析とその制御法の開発 3. 細胞骨格関連タンパク質による免疫応答制御機構の解明
		准教授	里 岡 大 樹	1. 免疫代謝とレドックスシグナルによる自己免疫疾患制御の解明 2. CD8陽性制御性T細胞の分化機構の解明とその自己免疫疾患治療への応用 3. 非リンパ臓器特異的免疫反応機序の解明
	数学	准教授	川 北 素 子	1. 多数の有理点を持つ代数曲線の研究
医療文化学講座	心理学	准教授	小 島 隆 次	1. 空間認知と言語理解 2. 感性情報処理 3. 非言語情報認知
	英語	教授	加 藤 穰	1. 生命倫理に関する国際比較研究 2. 医学・看護英語教育に関する研究
	文化人類学	教授	兼 重 努	1. 中国少数民族の人類学的研究 2. 風水思想の人類学的研究 3. 功德の観念と積徳行に関する人類学的研究
解剖学講座	生体機能形態学	教授	宇田川 潤	1. 行動における脳内リン脂質の機能の解析 2. 胎生期環境が関わる非アルコール性脂肪性肝疾患の発症機構の解析 3. 手の構造と把握機能の研究
		特任准教授	内 村 康 寛	1. DOHaD(Developmental Origins of Health and Disease)仮説の分子基盤の解明 2. サルコペニアの発症に関与する遺伝子の機能解明
	神経形態学	教授	勝 山 裕	1. 脳形態形成機構の解析 2. 幹細胞の維持と細胞分化機構の解析 3. 精神疾患モデル動物の解析
		准教授	金 田 勇 人	1. 老化にともなう幹細胞および組織の恒常性破綻機構の解析 2. 老年性疾患のバイオマーカーの探索 3. 脳形態形成機構の解析
生理学講座	統合臓器生理学	教授	等 誠 司	1. 神経幹細胞の発生・維持・分化のメカニズム解析 2. 中枢神経系の再生戦略開発 3. 精神疾患の病態解明
生化学・分子生物学講座	分子生理化学	教授	縣 保 年	1. エピジェネティックな遺伝子発現とがん化の制御機構 2. 染色体高次構造変化による遺伝子発現とがん化の制御機構 3. iPS細胞を用いたがん特異的T細胞の再生
		准教授	寺 田 晃 士	1. 免疫細胞の抗原受容体遺伝子再構成の分子制御機構 2. 免疫細胞の発生を制御する遺伝子の発現調節機構
	分子病態生化学	教授	扇 田 久 和	1. がん、循環器疾患におけるシグナル伝達機構と遺伝子解析 2. 細胞接着の分子機構
		准教授	佐 藤 朗	1. がん、炎症性疾患における異細胞間コミュニケーションとシグナル伝達機構 2. 霊長類循環器疾患モデルの作製とその病態解析
	再生・修復医学	准教授	寺 島 智 也	1. 細胞及び臓器標的化による新規分子治療法の開発 2. 骨髄由来細胞のリプログラミングによる再生治療への応用 3. 骨髄由来細胞と神経疾患との関連性

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
病理学講座	人体病理学	教授	九 嶋 亮 治	1. 消化管病理学 2. 腫瘍病理診断学
		准教授	仲 山 貴 永	1. 非浸潤性消化管癌の進展可能性についての研究 2. 合成致死に基づく抗腫瘍治療の研究
	疾患制御病態学	教授	伊 藤 靖	1. インフルエンザウイルス及び新型コロナウイルスに対するワクチンおよび治療薬の開発 2. サルモデルを用いた遺伝子病と老化の研究 3. カニクイザルを用いた免疫反応の研究
		准教授	石 垣 宏 仁	1. 霊長類モデルを用いた病理学的、免疫学的研究 (特に腫瘍、移植、感染症について)
	微生物感染症学	准教授	旦 部 幸 博	1. がん関連遺伝子の生理機能解析 2. 新規抗腫瘍活性成分の探索
薬理学講座	ー	教授	西 英一郎	1. 膜タンパク質細胞外ドメイン切断の分子機構および生物学的役割の解明 2. 転写コレギュレーターによる代謝調節機構の解明 3. 心血管病、がん、炎症性疾患におけるメタロペプチダーゼの役割の解明
		准教授	大 野 美紀子	1. 多機能プロテアーゼによる心拍数制御機構 2. 急性冠症候群における新規バイオマーカーの有用性の検討 3. 巨核球成熟と血小板産生におけるプロテアーゼの役割 4. アルツハイマー病におけるプロテアーゼの役割
社会医学講座	衛生学	特任准教授	北 原 照 代	1. 作業関連性筋骨格系障害の予防 2. 障害者の安全衛生（二次障害予防） 3. 治療と仕事の両立支援 4. 障害者・情報弱者の社会的障壁と健康
	法医学	教授	一 杉 正 仁	1. 交通外傷分析 2. 血栓症突然死の病態解析 3. 外因死の予防医学
		准教授	中 村 磨 美	1. 法医中毒、臨床中毒、濫用薬物の生理作用 2. 法医画像、死後CT 3. 新型コロナウイルスその他感染症による医療機関外死亡
内科学講座 (内科)	循環器内科	教授	中 川 義 久	1. 虚血性心疾患の冠血行再建 2. 動脈硬化性疾患の一次・二次予防 3. 至適抗血栓療法
		講師	小 澤 友 哉	1. 臨床心臓電気生理学の研究 2. 不整脈の治療法の開発 3. 心臓電気現象のシミュレーション研究
		講師	酒 井 宏	1. 心不全の病態解明 2. 肺高血圧症の診断治療に関する研究 3. 心アミロイドーシスの診断治療に関する研究
	呼吸器内科	教授	中 野 恭 幸	1. 肺の構造と機能に関する研究 2. 呼吸器疾患における構造と機能に関する研究
		准教授	山 口 将 史	1. 重症喘息の病態生理に関する研究 2. 慢性難治性咳嗽の病態生理と治療に関する研究
	消化器内科	教授	安 藤 朗	1. 腸管粘膜における免疫応答に関する研究 2. 腸内細菌叢の異常とIBDの病因に関する研究 3. サイトカインネットワークに関する研究
		准教授	稲 富 理	1. 膵腫瘍および慢性膵炎における膵線維化に関する研究 2. ERCP関連手技における新規デバイス開発
		講師	西 田 淳 史	1. 腸管粘膜免疫からの炎症性腸疾患の解明 2. 腸内微生物叢からの炎症性腸疾患の病態解明 3. サイトカインからの炎症性腸疾患の病態解明
	血液内科	教授	村 田 誠	1. 造血幹細胞移植における免疫応答の機序解明 2. 難治性血液疾患の予後因子の同定 3. 新規免疫細胞療法の開発

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
内科学講座 (内科)	糖尿病内分泌内科、 腎臓内科	教授	久 米 真 司	1. 糖尿病性腎症の病態解明 2. 慢性腎臓病の病態解明 3. 腎病態栄養学
		講師	藤 田 征 弘	1. 2型糖尿病の発症進展にかかわる病態の解明 2. インクレチンを含む糖代謝における消化管の役割の解明 3. 膵ランゲルハンス島におけるα細胞の病態生理学 4. 糖尿病合併症のコホート研究
	脳神経内科	教授	漆 谷 真	1. 筋萎縮性側索硬化症の分子標的治療 2. 神経変性疾患の細胞生物学的解析 3. 神経疾患の非侵襲的診断 4. 脳血管障害の分子病態解析 5. 神経リハビリテーションと脳機能画像解析
		准教授	真 田 充	1. 糖尿病性神経障害の発症機序に関する研究 2. 慢性炎症と末梢神経障害に関する研究
		講師	山 川 勇	1. 臨床神経学における電気診断 2. 神経リハビリテーションと脳機能画像解析
小児科学講座 (小児科)	—	教授	丸 尾 良 浩	1. 遺伝性黄疸の分子遺伝学的研究 2. UDP-グルクロン酸遺伝子多型と薬剤代謝に関する研究 3. 先天性甲状腺機能低下症の分子遺伝学的研究
		准教授	多 賀 崇	1. 小児白血病の新規治療開発に関する臨床研究
		講師	澤 井 俊 宏	1. 非典型溶血性尿毒症症候群の診断と治療に関する研究 2. C3腎症の発症機構の解明 3. 補体制御異常症に関与する因子の探索
		講師	柳 貴 英	1. 早産児遷延性黄疸の遺伝学的背景 2. 早産児ビリルビン脳症の遺伝学的背景
精神医学講座 (精神科)	—	教授	尾 関 祐 二	1. 統合失調症の病因、病態の検討 2. 抗精神病薬治療の循環器への副作用に関する研究
		特任教授	角 谷 寛	1. 睡眠障害の臨床研究 2. 睡眠とメンタルヘルスの疫学研究 3. 睡眠を解析するウェアラブルデバイスの開発と評価
		准教授	藤 井 久彌子	1. 統合失調症の病因・病態の研究 2. 不随意運動を伴う精神疾患に関する研究 3. 精神疾患合併妊婦の臨床研究
		講師	吉 村 篤	1. 高齢者の術後せん妄の発症予測に有用な生体指標の探索研究 2. 睡眠障害に起因する社会機能／QOL障害の実態調査 3. 電気けいれん療法（ECT）に関する多施設共同による 後方視観察研究
皮膚科学講座 (皮膚科)	—	教授	藤 本 徳 毅	1. 自己免疫性疾患における抑制性B細胞の研究 2. 皮膚悪性腫瘍の治療に関する研究 3. 先天性表皮水疱症の遺伝子治療 4. 自己炎症性疾患の発症機序に関する研究
		講師	加 藤 威	1. 毛髪疾患の治療に関する研究 2. 皮膚悪性腫瘍の治療に関する研究
		講師	高 橋 聡 文	1. アレルギー性皮膚疾患の診断と治療に関する研究 2. 皮膚感染症における病原体遺伝子検出に関する研究 3. 遺伝性皮膚疾患の病態と治療に関する研究
外科学講座（外科）	消化器外科、乳腺・小児・ 一般外科	教授	谷 真 至	1. 膵切除術における合併症予防に関する臨床研究 2. 消化器癌に対する免疫療法の開発 3. 膵機能に関する研究 4. 消化器癌転移メカニズムの解明 5. 手術手技に関する介入研究 6. 癌と線維芽細胞との相互作用
		講師	三 宅 亨	1. 腫瘍と線維化に関する研究 2. 癌転移に関する研究 3. 大腸における周術期管理に関する研究
		講師	山 口 剛	1. 肥満外科・糖尿病外科治療における安全性と有効性の研究 2. 食道・胃疾患の外科治療の研究 3. 消化性潰瘍の治療における安全性と有効性の研究

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
外科学講座（外科）	心臓血管外科、呼吸器外科	教授	鈴木友彰	1. 冠動脈バイパスモデルの研究 2. 心臓大血管手術の長期予後の研究 3. 僧帽弁形成の術式および長期予後の研究 4. 急性大動脈手術の研究および長期予後の研究
		准教授	花岡 淳	1. 胸部疾患に対する胸腔鏡下低侵襲手術 2. 肺癌に対する手術法の研究 3. 呼吸器外科手術におけるダビンチ手術 4. 肺葉間・区域間作成方法の研究 5. 動的X線装置を用いた肺排切除前後の肺機能の評価
		講師	大塩 恭彦	1. 肺癌に対する単孔式手術 2. 肺癌に対するナビゲーション手術 3. 胸部手術に対する8K内視鏡システム 4. 肺手術時の新規気漏検出法および修復法の開発 5. 抗腫瘍免疫応答と腫瘍微小環境に関する研究
		講師	高島 範之	1. 胸部大動脈瘤の長期予後の研究 2. 急性大動脈解離に対する術式検討と長期予後の研究 3. 動脈壁の伸展性の検討と臨床への応用 4. 大動脈弁狭窄症の術式および長期予後の研究
整形外科科学講座（整形外科）	—	教授	今井 晋二	1. 鏡視下肩関節手術の臨床成績向上に関する研究 2. 人工肩関節置換術の臨床成績向上に関する研究 3. 軟骨損傷と脊髄損傷に対する再生医療学的研究
		准教授	森 幹士	1. 脊柱靱帯骨化症の病態と治療に関する研究 2. 脊椎・脊髄の診断と治療に関する研究 3. 骨代謝に関する研究
		講師	久保 充彦	1. 人工膝関節全置換術の臨床成績の向上に関する研究 2. 人工膝関節全置換術のkinematicsに関する研究 3. 軟骨修復に関する基礎・臨床研究 4. 変形性膝関節症の疼痛に関する臨床研究
		講師	彌山 峰史	1. 脊柱靱帯骨化の骨化形成メカニズムの解析 2. 靱帯肥厚の病態解析
脳神経外科学講座（脳神経外科）	—	准教授	辻 篤司	1. 虚血性脳血管障害の病態生理と治療法の開発 2. 脳血管内治療法の開発 3. 脳循環代謝の研究
		講師	深見 忠輝	1. 神経膠腫に対する集学的治療法の研究 2. 覚醒下手術の安全性及び危険性に関する研究 3. 内視鏡下手術による治療の適応に関する研究
		講師	新田 直樹	1. 内側側頭葉てんかんの病態と治療に関する研究 2. 神経生理学的検査の解析に関する研究 3. 脳腫瘍の病態と治療に関する研究
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）	—	教授	清水 猛史	1. 上気道炎症の病態とその制御 2. 病態気道における粘液産生と分泌 3. 上気道の免疫・アレルギー
		准教授	大脇 成広	1. 音声障害に対する診断と治療 2. 頭頸部癌の診断と治療
		講師	神前 英明	1. 上皮細胞による気道アレルギー疾患誘導のメカニズムとその制御 2. 好酸球性副鼻腔炎の病態解明 3. スギ花粉症の病態解明
		講師	戸嶋 一郎	1. 上気道における好酸球炎症の研究 2. アレルギー性鼻炎の病態解明 3. 気道上皮における粘液産生とその制御

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
産科学婦人科学講座	女性診療科	教授	村 上 節	1. 産婦人科低侵襲手術（子宮鏡・腹腔鏡・ロボット手術） 2. 子宮内膜症・子宮腺筋症 3. 生殖内分泌学・不妊症
	母子診療科	准教授	辻 俊 一 郎	1. 帝王切開癒痕症候群の病態解明と治療および予防法の開発 2. 周産期脳障害における病態解明と治療の開発 3. 子宮内膜症に関する研究 4. 精神疾患合併妊娠に対する臨床研究
		講師	笠 原 恭 子	1. 女性医学 2. 女性の骨粗鬆症
泌尿器科学講座 （泌尿器科）	—	講師	上 仁 数 義	1. 小児泌尿器科手術（形成手術、腹腔鏡手術に関する研究） 2. 小児排尿障害に関する研究 3. 小児泌尿器領域におけるMRI画像診断の応用
		講師	影 山 進	1. ロボット支援および腹腔鏡下手術に関する研究 2. 泌尿器癌に対する新規抗癌剤の創薬 3. 泌尿器癌のプロテオミクス研究
眼科学講座（眼科）	—	教授	大 路 正 人	1. 網膜硝子体疾患の病態解明と外科的治療の開発 2. 眼内サイトカインに関する研究 3. 未熟児網膜症モデルマウスを用いた網膜症の解析
		准教授	西 信 良 嗣	1. 網膜の分子生物学 2. 眼内薬物治療
		講師	澤 田 修	1. 硝子体内薬物動態の研究 2. 糖尿病黄斑浮腫に関する研究
		講師	柿 木 雅 志	1. 硝子体内薬物動態・サイトカイン動態の研究 2. カニクイザルを用いた眼内薬物動態・サイトカイン動態の研究 3. 硝子体手術に関する新しい手術方法の研究
麻酔学講座 （麻酔科、ペイン クリニック科）	—	教授	北 川 裕 利	1. 心筋虚血再灌流傷害モニタリング法の開発 2. 麻酔・麻薬による心保護作用の解明
		講師	小 嶋 亜希子	1. Ca ²⁺ 輸送タンパク質に着目した、麻酔薬の心筋保護メカニズムにおける分子基盤の解明 2. 麻酔薬による心臓ペースメーカー機能に対する修飾作用の研究 3. 麻酔薬とイオンチャネルとの相互作用における電気生理学的、分子生物学的解析 4. 不整脈発生に関わるイオン機序に対する麻酔薬の修飾作用の研究
放射線医学講座 （放射線科、放射線部）	—	教授	渡 邊 嘉 之	1. CT、MRIを用いた神経疾患の病態解明、機能情報の画像下の研究 2. 人工知能の画像診断への応用 3. MRIを用いた生体内の流れの研究
		准教授	園 田 明 永	1. 動態X線解析を用いた拘束性肺障害、閉塞性肺障害における深呼吸時の気道径の評価 2. 動態X線解析を用いた拘束性肺障害、閉塞性肺障害における深呼吸時の肺野濃度の評価 3. 腎動脈周囲神経叢へのボツリヌス毒素を用いた高血圧治療方法の開発
		講師	河 野 直 明	1. 限局性前立腺癌の放射線治療に関する臨床研究 2. 転移性脳腫瘍に対する多標的定放射線照射の安全性と有効性に関する後ろ向き研究
		講師	北 原 均	1. 人工知能を用いた肺の超高精細CTの画質向上に関する研究 2. 骨軟部画像診断の精度向上に関する取り組み 3. 小児画像診断の精度向上に関する取り組み 4. 神経画像診断の精度向上に関する取り組み
歯科口腔外科学講座 （歯科口腔外科）	—	講師	家 森 正 志	1. 口腔癌治療に関する研究 2. 顎変形症および口蓋裂治療に関する研究 3. 骨吸収抑制剤関連顎骨壊死に関する研究 4. 睡眠時無呼吸症候群に関する研究 5. 歯周病に関する研究 6. インプラント治療に関する研究
		講師	越 沼 伸 也	1. 露出骨面創部治癒に関するメカニズムの解明および新規組織再生修復材料の開発 2. 網羅的口腔内細菌叢の解析 3. 顎顔面形態と睡眠時無呼吸症候群と各種疾患との関連性の解明

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
臨床検査医学講座 (検査部)	—	准教授	茶 野 徳 宏	1. 遺伝子診断の臨床適用 2. 新規分子RBICCIの生物学的機能の解析 3. がん特異的バイオマーカーを用いた診断と治療の開発 4. RAB39Aを標的とする分子創薬
病理部	—	准教授	森 谷 鈴 子	1. 病理診断学 2. 乳腺・婦人科病理
救急集中治療医学講座 (救急集中治療部、 総合診療部)	—	教授	塩 見 直 人	1. 重症頭部外傷の集学的治療に関する研究 2. 脳死・脳蘇生に関する臨床的研究 3. 病院前救急診療体制の構築 4. 救急領域におけるエンドオブライフ・ケアの取り組み
		准教授	辻 田 靖 之	1. 過大侵襲時の心機能障害と不整脈に関する研究 2. 敗血症の臓器障害に関する研究 3. 心臓・血管原性ショックの疫学研究
		講師	藤 野 和 典	1. 侵襲時における多臓器不全発症の機序の解明
臨床腫瘍学講座 (腫瘍センター)	—	教授	醍 醐 弥太郎	1. 新規がん関連遺伝子の同定と機能解析による発がん機構の解明 2. ゲノミクス、プロテオミクス解析による体系的がん進展機構の解明 3. がんの新規分子標的治療薬（低分子・抗体・核酸医薬）の開発 がんペプチドワクチンおよび免疫制御薬の開発とトランスレーショナルリサーチ 4. がんの個別化医療に向けたバイオマーカーと分子病態診断システムの開発とトランスレーショナルリサーチ 5. ヒト臨床試料のバンク構築と利活用による研究支援活動
		講師	村 田 聡	1. 消化器癌手術後の転移機序の解析と治療法の開発 2. 消化器癌周術期における癌微小環境の制御 3. 固形がんに対する免疫細胞治療法の開発
総合内科学講座	—	教授	杉 本 俊 郎	1. 内科診断学 2. 地域医療 3. 水・電解質異常の基礎と臨床 4. ICTを用いた医学教育方法の開発
		准教授	大 西 正 人	1. 慢性心不全の病態生理と治療 2. プライマリケアにおける高血圧の診断と治療 3. シミュレーション医学教育
		准教授	伊 藤 明 彦	1. 内視鏡的胃瘻造設術の手技と管理 2. 経腸栄養の適応と合併症 3. NST（栄養サポートチーム）活動と多職種連携
		准教授	前 野 恭 宏	1. 糖尿病の地域医療連携効率化に関する研究 2. 糖尿病患者教育と予防教育の効率的な方法に関する研究
		講師	和 田 広	1. 呼吸器内科診療における地域連携効率化に関する研究 2. 閉塞性肺疾患の臨床
総合外科学講座	—	教授	目 片 英 治	1. 大腸癌の集学的治療 2. 樹脂製手術器具の開発 3. 抗癌剤感受性試験 4. 腫瘍学（病態・治療・地域連携）
		講師	太 田 裕 之	1. 大腸癌の集学的治療 2. 術後合併症に関する臨床研究 3. 樹脂製手術器具の開発
		講師	赤 堀 浩 也	1. 消化器外科侵襲学に関する研修 2. マイクロ波手術デバイスの開発 3. 瘻切除術に関する臨床研究
		講師	北 村 直 美	1. 新しいエンドトキシン測定法の開発 2. 腹腔鏡下胆のう摘出術に対する術後鎮痛
形成外科学講座	—	講師	岡 野 純 子	1. 広範囲組織欠損創に対して組織再生を可能にするスキャフォールドの開発 2. 多剤耐性菌に対する抗生剤に代わる次世代新規治療の開発
光学医療診療部	—	講師	馬 場 重 樹	1. 間接熱量測定を用いた必要エネルギー量に関する研究 2. サイトカインとエネルギー代謝に関する研究 3. 炎症性腸疾患の栄養療法に関する研究
血液浄化部	—	講師	金 崎 雅 美	1. 血液浄化療法学 2. 糖尿病性腎症の発症および進展機構の解明
輸血部	—	講師	南 口 仁 志	1. 造血幹細胞の特性解明 2. 白血病幹細胞の特性解明
医療情報部	—	准教授	杉 本 喜 久	1. 医用電子工学 2. 医療情報システム 3. 循環器系の生体工学

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
薬剤部	－	教授	森 田 真 也	1. 脂質トランスポーターおよび脂質代謝に関する研究 2. 脂質分析法の開発 3. 個別化薬物療法に関する研究
		准教授	池 田 義 人	1. 脂質トランスポーターに関する研究 2. 金属トランスポーターに関する研究
医療安全管理部	－	教授	清 水 智 治	1. 外科侵襲学に関する研究 2. 新しいエンドトキシン測定法の開発 3. 大腸癌・炎症性腸疾患の治療に関する研究
		講師	萬 代 良 一	1. 院内救急対応システム
リハビリテーション部	－	准教授	児 玉 成 人	1. 悪性骨・軟部腫瘍の病態と治療に関する研究 2. 整形外科再建手術におけるマイクロサージャリーによるアプローチ 3. 突発性前・後骨間神経の病態と治療に関する研究
臨床研究開発センター	－	講師	倉 田 真由美	1. 生体臓器移植に対する認識調査—インターネット調査による一般市民の自由記述回答の分析 2. インターネットを活用した研究参加希望者支援システムの構築 3. 改正臓器移植法における親族優先提供をめぐる議論の批判的検討
医師臨床教育センター	－	教授	川 崎 拓	1. 人工関節手術に関する研究 2. リウマチ性疾患の疫学調査 3. 運動器リハビリテーションに関する研究
		特任講師	山 原 真 子	1. 糖尿病性腎臓病におけるポドサイトの障害機構の解明 2. 慢性腎臓病における腎機能障害機構の解明
神経難病研究センター	基礎－ 分子神経病理学	教授	西 村 正 樹	1. アルツハイマー病と脳老化の分子病態解明 2. アルツハイマー病の創薬標的の開拓と解析 3. 神経変性疾患のリスク制御による予防的医療の実現に向けた研究
	橋渡し－ 神経診断治療学	教授	石 垣 診 祐	1. 神経変性疾患・認知症の病態解明 2. 核酸医薬を用いた神経変性疾患・認知症の根本治療法開発 3. 摂食機能・高次脳機能指標、画像指標を用いた神経変性疾患・認知症のバイオマーカー開発
		准教授	柳 沢 大治郎	1. アルツハイマー病の発症機序の解明と治療標的の探索 2. 認知症の超早期診断法の開発 3. 神経変性疾患の病態解明と診断・治療法の開発
	基礎－ MR医学研究	准教授	椎 野 顯 彦	1. 分子標的薬の開発 2. 脳MR画像診断のためのプログラム開発 3. MRスペクトロスコピー 4. 神経病変の診断と診療研究
動物生命科学研究センター	－	教授	依 馬 正 次	1. 霊長類ES/iPS細胞に関する研究 2. 遺伝子組換えサル作製技術の開発とヒト疾患モデリング研究 3. 霊長類の初期発生・胎盤発生の研究 4. 血管新生の分子機構
		准教授	守 村 敏 史	1. 新規発光プローブによる抗小胞体ストレス薬の開発及び応用研究 2. TDP-43結合mRNAの翻訳産物に焦点を当てた孤発性筋萎縮性側索硬化症の細胞病態の解明 3. 病原関連変異APP遺伝子組換えアルツハイマー病モデルザルを用いた早期診断・治療法の開発
創発的研究センター	挑戦的研究部門	特任准教授	橋本 翔子	1. アルツハイマー病モデルマウスを用いた病態形成メカニズムの解明 2. 酸化ストレスが脳の恒常性維持に及ぼす影響の解析
	国際共同研究部門	特任教授	WAN ZURINAH WAN NGAH	1. アルツハイマー病をはじめとする神経変性疾患のメカニズムの解明とバーム油由来トコトリエノールなどの抗酸化物質による治療法に関する研究 2. トコトリエノール投与による腸内細菌叢と腸内メタボリズムの改善と認知機能との相関についての動物モデルを用いた研究 3. アルツハイマー病遺伝子導入神経芽細胞に対するトコトリエノールのアイソフォームの効果検証 4. トコトリエノール投与したアルツハイマー病モデルマウスの海馬におけるトランスクリプトーム、プロテオーム、メタボロームの総合的解析（マレーシア国民大学との共同研究）

所属	部門・領域等	職名	氏名	主な研究内容等
実験実習支援センター	－	准教授	朝比奈 欣 治	1. 肝臓の線維化における肝星細胞の活性化機構の解明 2. 腹腔内における臓器表面中皮と腹腔マクロファージの相互作用 3. 膵臓がんにおけるマクロファージの役割
保健管理センター	－	准教授	小 川 恵美子	1. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の病態解明 2. COPDコホート集団データを用いた臨床研究
情報総合センター	－	教授	芦 原 貴 司	1. コンピュータシミュレーションによる不整脈治療の開発 2. 難治性心房細動アブレーション医療機器と新術式の開発 3. 生体医工学・in silico・人工知能等による循環器病態解明 4. ヒトiPS心筋細胞シートの循環器病治療・創薬への応用
		准教授	本 山 一 隆	1. 恒星の形成過程の研究 2. 星間ガスの進化の研究 3. ハイパフォーマンス コンピューティング
医学・看護学教育 センター	－	教授	伊 藤 俊 之	1. 医学教育学
		教授	向 所 賢 一	1. 動物モデルを用いた胃・食道発癌に関する研究 2. 胆汁酸の発癌及び癌の進展に関する影響 3. 新しい3次元培養システムを用いた癌研究
NCD疫学研究センター	予防医学	教授	三 浦 克 之	1. 循環器疾患・生活習慣病の疫学 2. 循環器疾患・生活習慣病の予防医学 3. 栄養疫学
		准教授	門 田 文	1. 糖尿病・代謝性疾患・生活習慣病の疫学・予防医学 2. 循環器疾患・潜在性動脈硬化症の疫学研究 3. メタボロミクスによる認知症の解明
	最先端疫学部門	教授	矢 野 裕一朗	1. 生活習慣病の研究 2. ビッグデータ 3. 疫学研究
	医療統計学	准教授	原 田 亜紀子	1. 疫学研究における統計解析手法の開発 2. 健康・保健医療サービス研究のための統計解析手法の開発 3. 身体活動、加齢に関する疫学研究
革新的医療機器・ システム研究 開発講座（寄附講座）	－	特任教授	谷 徹	1. 次世代医療システム 2. ロボットによるナビゲーション外科手術 3. 外科低侵襲手術 4. マイクロ波手術デバイス 5. 悪性腫瘍温熱化学療法
地域医療教育研究拠点	－	准教授	梅 田 朋 子	1. 乳癌の浸潤転移と線溶系および接着因子 2. 乳癌浸潤範囲のMRIマッピング 3. 乳癌術前化学療法の細胞性免疫に対する効果
		准教授	川 合 寛 道	1. 糖尿病神経障害の発症機構とTNF 2. ミトコンドリア脳筋症の病態解明 3. ALSの遺伝子治療
I R室	－	准教授	森 野 勝太郎	1. 代謝疾患と栄養の研究 2. ミトコンドリアバイオジェネシス

国立大学法人滋賀医科大学大学院医学系研究科における
研究指導計画等に関する申合せ

令和4年10月12日
大学院教育部門会議決定
令和4年12月5日改正

滋賀医科大学大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）及び看護学専攻（修士課程）の学生に対して、大学院学則第18条の2に規定する研究指導計画、並びに研究計画書について、次のとおり定める。

（研究指導計画について）

1. 指導教員は、研究指導計画において、次の各号に規定する内容に留意する。
 - （1）毎年度あらかじめ研究指導計画書（別紙様式1）を作成し、学生に明示する。
 - （2）研究指導計画書には年間計画を明記する。
 - （3）明示した研究指導計画書については、学生に速やかに確認させ、学生課大学院教育支援係まで確認した旨を報告する。

（研究計画書について）

2. 研究計画書策定において、次の各号に規定する内容に留意する。
 - （1）学生は研究指導計画書を確認の上、指導教員、副指導教員及び学生の連名で研究計画書（別紙様式2）を作成するものとする。
 - （2）指導教員は、入学後、修了までの研究計画について、指導する学生ごとに研究計画書を作成する。
 - （3）作成した研究計画書は、写しをとる等、研究指導教員と学生の双方が適切な方法により参照できるようにする。
 - （4）作成した研究計画書は指定の期日までに学生課大学院教育支援係まで提出する。
 - （5）研究の進捗状況及び研究基礎力試験（Qualifying Examination）又は研究デザイン発表会の結果により必要に応じて計画の見直しを行うことができる。研究計画を変更する場合は、変更後の研究計画書を学生課大学院教育支援係まで提出する。
 - （6）休学により提出ができなかった学生の研究計画書は、休学期間終了後に作成・提出する。

（その他）

3. この申合せに定めるもののほか、必要な事項については、大学院教育部門会議が定めるものとする。

年度 研究指導計画書

指導教員	講座名等	
	氏 名	
副指導教員	講座名等	
	氏 名	
研究指導計画（指導教員記入欄）		
（記入例） ・ 関連知識習得のための輪読会（月〇回） ・ 文献収集と研究室内での論文紹介（月〇回） ・ 抄読会に参加し、論文の読解指導（月〇回） ・ 研究設備・機器等使用法、調査・実験等の実地指導（月〇回） ・ 実験等データの解析と解釈に関する指導（月〇回） ・ 研究結果のまとめ方と考察、プレゼンテーションについての指導（月〇回） ・ 学外研究会の参加（〇月頃） ・ 中間発表会への参加（〇月頃） ・ 指導教員の担当授業の TA、研究の RA へ参加し、学生の指導を通じたコミュニケーション能力やリーダーシップ能力を高める（月〇回）		

学生記入欄			
学 生 番 号		日付	
氏 名			
課 程 コース・領域			

1. 年次に分けて、研究指導計画を具体的に記入してください。
2. 指導教員は、作成後の研究指導計画書を学生に明示してください。
3. 学生の署名をもらった計画書は、期日までに学生課大学院教育支援係に提出してください。

入学年度	年度	学籍番号	
氏 名			
コース名			

指 導 教 員	講座名等	
	氏 名	
副指導教員	講座名等	
	氏 名	
研 究 題 目		
研究計画（指導教員記入欄）		

(裏面へ続く)

1. 学生と指導教員が相談のうえ、作成してください。
2. 年次に分けて、論文作成の計画等を具体的に記入してください。
3. 指導教員は、作成後の研究計画書を学生に明示してください。
4. 作成した計画書は、学生と指導教員がそれぞれ写しを所持し、原本は期日までに学生課大学院教育支援係に提出してください。

研究計画（指導教員記入欄）

国立大学法人滋賀医科大学大学院学則

平成16年4月1日制定

令和5年2月1日改正

第1章 総 則

(趣旨)

第1条 この大学院学則は、国立大学法人滋賀医科大学学則（以下「学則」という。）第4条の規定により、滋賀医科大学大学院（以下「大学院」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的及び使命)

第2条 大学院は、医学及び看護学の領域において、優れた研究者及び高度な知識と技術をもつ専門家を養成することを目的とし、もって、医学及び看護学の進歩と社会福祉の向上に寄与することを使命とする。

(研究科及び課程)

第3条 大学院に医学系研究科（以下「研究科」という。）を置く。

2 研究科に関する校務は、学長がつかさどる。

3 研究科の課程は、博士課程及び修士課程とする。

(専攻及び学生定員)

第4条 研究科に置く専攻及び教育研究上の目的は、次のとおりとする。

(1) 博士課程

医学専攻

自立して創造的研究活動を行うのに必要な高度の研究能力と、その基礎となる豊かな学識及び人間性を備えた優れた研究者及び医療人を育成し、併せて医学の進歩と社会福祉の向上に寄与することができる人材の育成を目的とする。

(2) 修士課程

看護学専攻

広い視野に立って精深な学識を授け、看護学における研究能力と人間性を備えた優れた研究者を育成するとともに、高度な先進的看護を支える確かな専門知識と看護技術をもつ優れた看護の専門家を養成し、併せて看護学の進歩と社会福祉の向上に寄与することができる人材の育成を目的とする。

2 博士課程の収容定員は120名、入学定員は30名とし、修士課程の収容定員は32名、入学定員は16名とする。

(教育方法及び教員組織)

第5条 大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行い、大学院設置基準（昭和49年6月20日文部省令第28号）

に定める資格を有する本学の教員が担当するものとする。

- 2 前項の授業科目の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、大学院委員会の議を経て、当該授業を行う教室等以外の場所及び多様なメディアを利用して実施することができる。

(大学院委員会)

第6条 大学院に、大学院委員会を置く。

- 2 大学院委員会に関し必要な事項は、別に定める。

第2章 学年、修業年限、在学年限

(学年、学期及び休業日)

第7条 学年、学期及び休業日については、学則第11条から第13条の規定を準用する。

(修業年限)

第8条 大学院の標準修業年限は、博士課程にあつては4年、修士課程にあつては2年とする。ただし、修士課程の学生が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて教育課程を履修し、修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

- 2 前項ただし書の取り扱いに関して必要な事項は、別に定める。

(在学年限)

第9条 在学年限は、博士課程にあつては8年、修士課程にあつては4年を超えることができない。

- 2 前項にかかわらず、社会人入学を希望して入学した者（社会人特別選抜により入学した者を含む。）の在学年限は、博士課程にあつては12年、修士課程にあつては6年までとする。

第3章 入 学

(入学の時期)

第10条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、必要があると認めるときは、後期の始めにおいても、学生を入学させることができる。

(入学資格)

第11条 博士課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 大学の医学部医学科、歯学部又は修業年限が6年の薬学若しくは獣医学を履修する課程を卒業した者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了した者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修す

る課程を含むものに限る。)を修了した者

- (4) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - (5) 修士課程を修了した者又は修士の学位を有する者と同等以上の学力がある者で、大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者等昭和30年4月8日文部省告示第39号及び平成元年9月1日文部省告示第118号により文部科学大臣の指定した者
 - (6) 修業年限が6年の大学（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程に限る。）に4年以上在学し、所定の単位を優秀な成績で修得したと大学院が認めた者
 - (7) 外国において学校教育における16年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程（医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。）を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者であって、所定の単位を優秀な成績で修得したと大学院が認めた者
 - (8) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学（医学、歯学又は修業年限が6年の薬学若しくは獣医学を履修する課程に限る。）を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者
- 2 修士課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。
- (1) 大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により、学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
 - (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣

が定める日以後に修了した者

(7) 文部科学大臣の指定した者

(8) 大学に3年以上在学した者であつて、所定の単位を優秀な成績で修得したと大学院が認めた者

(9) 外国において学校教育における15年の課程を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了した者、又は我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者であつて、所定の単位を優秀な成績で修得したと大学院が認めた者

(10) 大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達した者

（編入学、転入学及び再入学）

第12条 次の各号の一に該当する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考のうえ、相当の学年に入学を許可することがある。

(1) 他の大学の大学院を退学した者で、大学院に編入学を志願する者

(2) 他の大学の大学院に在学する者で、大学院に転入学を志願する者

(3) 本学大学院を退学した者で、再入学を志願する者

2 編入学、転入学及び再入学に関し必要な事項は、別に定める。

（専攻の変更）

第13条 削除

（編入学等の場合の取扱い）

第14条 第12条の規定により編入学、転入学、再入学を許可された者の履修した授業科目及び修得した単位数の取扱い並びに在学期間の通算等の取扱いについては、大学院委員会の議を経て学長が決定する。

（入学の出願、入学者の選考等）

第15条 入学の出願、入学者の選考等、入学手続及び入学許可は、学則第18条から第20条までの規定を準用する。この場合において、第19条中「教授会」とあるのは、「大学院委員会」と読み替えるものとする。

第4章 教育課程

（教育課程）

第16条 教育課程は、次項に掲げる編成方針に基づき、大学院委員会の議を経て、学長が編成する。

2 教育課程は、医学系研究科の教育上の目的を達成するため必要な授業科目を開設し、

体系的に編成するものとする。

- 3 各専攻の授業科目、履修単位数及び履修方法については、別に定める。

(授業日数、単位の計算方法等)

第17条 授業日数及び成績の評価については、学則第30条及び第38条の規定を準用する。

- 2 授業科目の単位数については、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

(教育方法の特例)

第18条 教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(成績評価基準等の明示等)

第18条の2 大学院は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

- 2 大学院は、学修の成果及び学位論文に係る評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

第5章 課程の修了及び学位の授与

(履修科目の登録)

第19条 学生は、履修する授業科目の登録にあたっては、あらかじめ指導教員の指導を受けるものとする。

(授業科目履修の認定等)

第20条 各授業科目の履修の認定は、試験又はその他の審査により行う。

- 2 前項の試験等は、原則として毎学期末又は毎学年末に行うものとする。ただし、病気その他やむを得ない理由のため受験できなかった者に対しては、追試験を行うことがある。

(修了要件及び論文評価基準)

第21条 博士課程の修了の要件は、大学院に4年以上在学し、第16条第2項に定める授業科目について、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

- 2 博士論文については、その独創性が高く、自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力とその基礎となる豊かな学識を証示するに足るものをもって合格とする。
- 3 修士課程の修了の要件は、大学院に2年以上在学し、第16条第2項に定める授業科目

について、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、当該修士課程の目的に応じ、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

- 4 前項の場合において、高度実践コースを選択した者に限り、当該修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果をもって修士論文に代えることができる。
- 5 修士論文については、新しい知見を含み、看護学研究者としての十分な知識及び研究技法、研究倫理を証示するに足るものをもって合格とする。
- 6 第1項、第3項及び第4項により、博士課程又は修士課程の修了の要件を満たした者について、大学院委員会の議を経て、学長が修了を認定する。

(他の大学院等における授業科目の履修等)

第22条 教育研究上有益と認めるときは、他の大学の大学院とあらかじめ協議のうえ、当該大学院の授業科目を履修させることがある。

- 2 前項の規定により修得した授業科目の単位については、大学院委員会の議を経て、10単位を限度として課程修了の要件となる単位として認めることができる。
- 3 教育研究上有益と認めるときは、他の大学の大学院、研究所等とあらかじめ協議のうえ、学生に当該大学院、研究所等において必要な研究指導を受けさせることができる。ただし、修士課程の学生について研究指導を受けさせる場合には、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第23条 教育研究上有益と認めるときは、本学の大学院に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を本学の大学院に入学した後の本学の大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項により修得したものとみなすことができる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き、前条第2項に規定する単位数（10単位）とは別に10単位を超えない範囲で修了要件に算入することができるものとする。

(学位の授与)

第24条 博士課程を修了した者に対し、博士の学位を、修士課程を修了した者に対し、修士の学位を授与する。

- 2 学位に関し必要な事項は、別に定める。

第6章 留学、休学、転学、退学及び除籍

(留学)

第25条 外国の大学院、研究所等で学修することを志願する者は、学長の許可を受けて、

留学をすることができる。

2 前項の許可を受けて留学した期間は、第21条に定める在学期間に含めることができる。

3 第18条の規定は、第1項の規定による留学の場合に準用する。

(休学等)

第26条 休学、転学、退学及び除籍については、学則第45条から第47条まで、第49条及び第50条の規定を準用する。この場合において、第50条中「教授会」とあるのは、「大学院委員会」と読み替えるものとする。

2 修士課程においては、学則第46条第2項の規定にかかわらず、休学期間は、通算して2年を超えることができない。

第7章 賞 罰

(表彰及び懲戒)

第27条 表彰及び懲戒については、学則第51条及び第52条の規定を準用する。この場合において、第51条及び第52条第1項中「教授会」とあるのは、「大学院委員会」と読み替えるものとする。

第8章 聴講生、科目等履修生、特別聴講学生、研究生、特別研究学生 及び外国人留学生

(聴講生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生)

第28条 聴講生、科目等履修生、特別聴講学生及び外国人留学生の取扱い等については、学則第53条から第55条及び第57条の規定を準用する。

(研究生)

第29条 本学の大学院において特定の専門的事項の研究を志願する者があるときは、当該研究科の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生を志願することのできる者は、大学院修士課程以上を修了した者又は大学院においてこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

3 研究期間は、1年とする。ただし、特別の理由がある場合は、その期間を更新することができる。

4 研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(特別研究学生)

第30条 他の大学又は外国の大学の大学院の学生で、大学間の協議に基づき、本学の大学院において研究指導を志願する者があるときは、特別研究学生として入学を許可する。

2 特別研究学生に関し必要な事項は、別に定める。

第9章 授業料、その他の費用

(授業料等)

第31条 授業料、入学料及び検定料の納付方法並びに免除又は猶予の取扱い等については、学則第59条から第62条までの規定を準用する。ただし、第62条第2項第1号については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、特別研究学生の授業料、入学料及び検定料の取扱い等については、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 特別研究学生の入学料及び検定料は、徴収しない。
- (2) 特別研究学生の授業料の額は、学則第59条第1項に定める研究生の授業料と同額とする。ただし、特別研究学生が次のいずれかに該当する場合は、授業料は徴収しない。

イ 国立大学法人の大学院の学生

ロ 大学間交流協定に基づく外国人留学生に対する授業料等の不徴収実施要項（平成3年4月11日文部省学術国際局長裁定）による外国人留学生

ハ 大学間特別研究学生交流協定に基づく授業料の相互不徴収実施要項（平成10年3月10日文部省高等教育局長裁定）による大学院の学生

- (3) 特別研究学生の授業料の納付方法は、学則第59条第2項の規定を準用する。
- (4) 特別研究学生の既納の授業料については、返還しない。

第10章 特別の課程

(履修証明プログラム)

第32条 大学院は、本学の学生以外の者を対象とした学校教育法第105条に規定する特別の課程として、履修証明プログラムを編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

2 前項の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この大学院学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成17年6月24日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成17年12月27日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成18年12月6日から施行し、平成18年10月1日から適用する。

附 則

この大学院学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成20年6月26日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この大学院学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 大学院医学系研究科博士課程における平成13年度以前の入学者用の専攻（生体情報・制御系専攻，生体代謝調節系専攻，生体防御機構系専攻，発生・分化・増殖系専攻，環境・生態系専攻）は、廃止する。

附 則

この大学院学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この大学院学則は、平成24年10月1日から施行する。
- 2 平成24年度以前の入学者（平成24年度後期入学者を除く。）については、改正後の別表1にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この大学院学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成25年度以前の入学者については、改正後の第4条第1項，第13条，第14条及び第16条第2項中別表1にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この大学院学則は、平成26年4月24日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この大学院学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この大学院学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成28年度以前の入学者については、改正後の別表1にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この大学院学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成28年度以前の入学者については、改正後の別表2にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この大学院学則は、平成29年10月25日から施行し、平成29年10月1日から適用する。
- 2 平成29年度以前の入学者（平成29年度後期入学者を除く。）については、改正後の別表1にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この大学院学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成30年度以前の入学者については、改正後の第21条第4項、別表1及び別表2にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

- 1 この大学院学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 令和元年度以前の入学者については、改正後の別表1及び別表2にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この大学院学則は、令和2年5月28日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

附 則

- 1 この大学院学則は、令和3年4月21日から施行し、令和3年4月1日から適用する。
- 2 令和2年度以前の入学者については、改正後の別表1及び別表2にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この大学院学則は、令和4年6月24日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

附 則

この大学院学則は、令和4年11月1日から施行する。

附 則

この大学院学則は、令和4年11月22日から施行する。

附 則

この大学院学則は、令和5年2月1日から施行する。

国立大学法人滋賀医科大学学位論文審査実施要項

平成16年4月1日制定

令和4年10月12日改正

この要項は、国立大学法人滋賀医科大学学位規程第20条の規定に基づき、博士の学位（以下「学位」という。）に係る学位論文（以下「博士論文」という。）審査の実施について必要な事項を定める。

第1 課程修了による博士論文審査の出願

1 出願者の資格

博士論文審査を願い出ることができる者は、次に掲げる各号の事項に該当する者とする。

- (1) 滋賀医科大学大学院医学系研究科の最終学年に在学していること又は早期修了が認められたこと
- (2) 所定の単位を修得したこと又は博士論文を提出する日の属する学期末までに所定の単位を修得する見込みであること
- (3) 博士論文作成に必要な研究指導を受けたこと
- (4) 研究基礎力試験（QE（Qualifying Examination））に合格していること

2 出願の時期

博士論文審査の出願時期は、第1回は6月1日から6月20日まで、第2回は12月1日から12月20日まで（出願時期の末日が土日祝日の場合は、当該土日祝日の前日まで）とする。

3 出願のための提出書類

博士論文審査を願い出る者は、次に掲げる各号の書類を指導教員の承認を得た上、学生課に提出する。

- | | |
|------------------------------------|------|
| (1) 博士論文審査願（別紙様式1） | 1部 |
| (2) 指導教員承認書（別紙様式2） | 1部 |
| (3) 論文目録（別紙様式3） | 1 1部 |
| (4) 博士論文 | 1 1部 |
| (5) 論文内容要旨（別紙様式4，4の2） | 1 1部 |
| (6) 博士論文の利益相反申告書（別紙様式1 2） | 1部 |
| (7) 参考論文がある場合は当該論文 | 1 1部 |
| (8) 博士論文が共著論文である場合は承諾書（別紙様式5） | 1部 |
| (9) 博士論文が共著論文である場合は自己の担当部分についての報告書 | 1 1部 |
| (10) 博士論文が未公表の場合は掲載予定証明書 | 1部 |
| (11) 履歴書（別紙様式6） | 1部 |

- | | |
|---|-----|
| (12) 倫理審査委員会で協議された場合は倫理審査委員会審査
結果通知書（写） | 1 部 |
| (13) 動物実験委員会で協議された場合は動物実験承認書（写） | 1 部 |
| (14) 動物生命科学研究所倫理委員会で協議された場合は動物生命
科学研究審査結果通知書（写） | 1 部 |
| (15) 遺伝子組換え実験安全委員会で協議された場合は遺伝子
組換え実験計画の承認について（写） | 1 部 |
| (16) その他必要がある場合は(12)～(15)に準ずる説明書 | 1 部 |

第2 論文提出による学位の申請

1 申請者の資格

大学院の課程を経ないで学位の授与を申請できる者の資格は、次に掲げる各号の一に該当する医学に関する研究歴を有し、別に定める論文提出による学位申請者の外国語試験に合格した者とする。

- (1) 大学の医学部又は歯学部を卒業した者で、基礎医学においては5年以上、臨床医学においては6年以上の研究歴があるもの。
- (2) 前号の学部以外の大学の学部を卒業した者で、7年以上の研究歴があるもの。
- (3) その他大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、14年以上の研究歴があるもの。

2 前項各号の研究歴とは、次に掲げる各号の一に該当するものとする。

- (1) 大学又は権威ある研究施設において専任職員として研究に従事した期間
- (2) 大学院を退学又は修了した者の場合は、大学院に在学した期間
- (3) 大学の研究生又は専攻生等として研究に従事した期間
- (4) 大学の医学部附属病院等又は大学院委員会がこれに準ずると認める医療機関において、医員又は医員（研修医）等として研究に従事した期間
- (5) 大学院委員会において前各号と同等以上と認める方法により研究に従事した期間

3 申請のための提出書類

学位を申請する者は、次に掲げる各号の書類を指導教員又は博士論文を紹介した教員の承認を得た上、学生課に提出する。

- | | |
|------------------------------------|-------|
| (1) 学位申請書（別紙様式7） | 1 部 |
| (2) 論文目録（別紙様式3） | 1 1 部 |
| (3) 博士論文 | 1 1 部 |
| (4) 論文内容要旨（別紙様式4，4の2） | 1 1 部 |
| (5) 博士論文の利益相反申告書（別紙様式12） | 1 部 |
| (6) 参考論文がある場合は当該論文 | 1 1 部 |
| (7) 博士論文が共著論文である場合は承諾書（別紙様式5） | 1 部 |
| (8) 博士論文が共著論文である場合は自己の担当部分についての報告書 | 1 1 部 |

(9) 博士論文が未公表の場合は掲載予定証明書	1 部
(10) 履歴書（別紙様式6）	1 部
(11) 資格審査願（別紙様式8）	1 部
(12) 大学卒業証明書	1 部
(13) 研究歴証明書	1 部
(14) 外国語試験合格証明書	1 部
(15) 倫理審査委員会で協議された場合は倫理審査委員会審査 結果通知書（写）	1 部
(16) 動物実験委員会で協議された場合は動物実験承認書（写）	1 部
(17) 動物生命科学研究所倫理委員会で協議された場合は動物生 命科学研究審査結果通知書（写）	1 部
(18) 遺伝子組換え実験安全委員会で協議された場合は遺伝子 組換え実験計画の承認について（写）	1 部
(19) その他必要がある場合は(15)～(18)に関する説明書	1 部

4 学位論文審査手数料

- (1) 学位論文審査手数料は、博士論文受理決定後に会計課に納入するものとする。
- (2) 滋賀医科大学大学院医学系研究科に4年以上在学し、所定の単位を修得して退学した者が、退学後1年以内に博士論文を提出する場合は、学位論文審査手数料を免除することができる。

第3 博士論文

- 1 博士論文は、原則として単著とし、英文で作成されたものとする。
- 2 博士論文が共著の場合は、次の各号の条件を満たすものとする。
 - (1) 博士論文提出者は、筆頭著者であること。
 - (2) 博士論文提出者は、他の共著者から当該論文を博士論文として使用しても差し支えない旨の承諾を得ていること。
 - (3) 博士論文提出者は、他の共著者が当該論文を博士論文として使用しない旨の承諾を得ていること。
 - (4) 博士論文提出者は、その研究において自ら担当した部分をまとめた和文による論文形式によって書かれた報告書を作成して、研究及び博士論文作成において中心的な役割を果たしたことを明確にすること。
- 3 博士論文の公表
 - (1) 博士論文は、権威ある内外の学術誌（原則として、ジャーナルサイテーションレポート（JCR）に収録されている雑誌で、投稿時のインパクトファクターが1.0 以上である学術誌）に公表された論文とする。ただし、創刊間もない学術誌等、特別な事由のある場合は、別途審査を行うものとする。
 - (2) 公表が予定されているものは、権威ある内外の学術誌の編集委員会等の掲載予定

証明書があれば、公表論文とみなすことができる。

- (3) やむを得ない場合には、未公表の博士論文をもって代えることができる。

未公表の博士論文は、学位の授与を受けた日から1年以内に公表しなければならない。

- (4) 未公表の博士論文が公表されたときは、直ちに別刷2部を学生課に提出するものとする。

第4 審査

1 資格等審査

博士論文提出者の資格等審査は、次の各号に掲げる事項について、大学院委員会が行うものとする。

- (1) 課程修了による博士論文審査出願者

- ア 在学年数
- イ 単位修得状況
- ウ その他

- (2) 論文提出による学位申請者

- ア 研究歴
- イ 外国語試験合格の有無
- ウ その他

2 博士論文の受理

学長は、大学院委員会の議を経た上で博士論文を受理する。

3 審査委員の選出

- (1) 大学院委員会は、3名の審査委員を選出する。
- (2) 審査委員3名のうち、1名を主査とし、他の2名を副査とする。主査は、委員の互選により選出する。
- (3) 指導教員又は博士論文を紹介した教員は、審査委員に選出できないこととする。
- ただし、審査委員会が必要と認めるときは、これらの者に説明又は意見を聞くことができる。

4 講演会

審査委員会は、審査の過程において博士論文についての講演会を開催するものとする。

5 最終試験及び学力の確認

- (1) 審査委員会は、博士論文の審査並びに課程修了による審査の場合には、国立大学法人滋賀医科大学学位規程第8条第1項に規定する最終試験を、論文提出による審査の場合には、同条第2項に規定する学力の確認を行うものとする。
- (2) 滋賀医科大学大学院医学系研究科に4年以上在学し、所定の単位を修得して退学した者が、再入学しないで論文提出による学位を申請する場合は、退学後3年以内に申請するときに限り、国立大学法人滋賀医科大学学位規程第8条第2項に規定する学力の確認のうち、外国語及び専攻学術全般に関する試問を免除することができる。

6 博士論文審査等の結果の報告

審査委員会は、博士論文審査等の結果を、博士論文審査の結果の要旨（別紙様式9）及び最終試験の結果の要旨（別紙様式10）又は学力の確認の結果の要旨（別紙様式11）により、大学院委員会に報告するものとする。

7 決定通知

学長は、大学院委員会の議を経て学位授与の可否について決定し、その結果を本人及び指導教員又は博士論文を紹介した教員に通知する。

第5 その他

この要項について、疑義が生じたときは、大学院委員会が決定する。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から実施する。

附 則

この要項は、平成16年5月9日から実施する。

附 則

この要項は、平成25年7月24日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

附 則

1 この要項は、平成26年4月1日から施行する。

2 平成25年度以前の入学者については、改正後の別紙様式1にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年5月27日から施行する。

附 則

この要項は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成29年10月31日から施行し、平成29年10月1日から適用する。

附 則

1 この要項は、令和元年8月21日から施行し、平成30年度入学者から適用する。

2 平成29年度以前の入学者については、改正後の第1第1項及び第3第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則

この要項は、令和2年7月1日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

附 則

1 この要項は、令和4年10月12日から施行し、平成31年度入学者から適用する。

2 平成30年度以前の入学者については、改正後の第3第3項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別紙様式1（課程博士用）

博 士 論 文 審 査 願

年 月 日

滋賀医科大学長 殿

年度入学

(ふりがな)

氏 名

印

滋賀医科大学学位規程第4条第1項の規定により、下記のとおり関係書類を添えて提出しますので審査をお願いします。

記

論 文 目 録	1 1 部
博 士 論 文	1 1 部
論文内容要旨	1 1 部
博士論文の利益相反申告書	1 部
履 歴 書	1 部

(備考)

1. 参考論文が共著である場合は、提出すること。
2. 博士論文が共著である場合は、共著者の承諾書及び自己の担当部分についての報告書を提出すること。
3. 博士論文が未公表の場合は、掲載予定証明書を提出すること。

指 導 教 員 承 認 書

年 月 日

滋賀医科大学長 殿

指導教員氏名

印

下記の論文を学位論文として提出することを承認します。

記

論文題目	
専 攻 名	
部門(コース)	
氏 名	

別紙様式3（課程博士・論文博士共用）

論文目録

※整理番号		(ふりがな) 氏 名	
博士論文題目			
参考論文題目			

(備考) ※印の欄には記入しないこと。

別紙様式4（課程博士・論文博士共用）

論 文 内 容 要 旨

※整理番号		(ふりがな) 氏 名	
博士論文題目			

- （備考） 1. 論文内容要旨は，研究の目的・方法・結果・考察・結論の順に記載し，
2千字程度でタイプ等で印字すること。
2. ※印の欄には記入しないこと。

承 諾 書

年 月 日

滋賀医科大学長 殿

(ふりがな)

氏 名

印

勤務先

現住所

電 話

下記の論文を (論文提出者) が貴大学院医学系研究科に博士論文として提出することを承諾します。

なお、私は当該論文を博士論文として学位の授与の申請に使用いたしません。

記

論文題目

著 者 名

掲載誌名

巻・頁・年

別紙様式6（課程博士・論文博士共用）

履 歴 書		
※整理番号	本籍地	都・道・府・県
男・女 (ふりがな) 氏 名 年 月 日生		
現 住 所		
学 歴 研究歴 職 歴 免許・資格等 賞 罰 以上のとおり相違ありません。 年 月 日 氏 名 印		

（備考）※印の欄には記入しないこと。

学 位 申 請 書

年 月 日

滋賀医科大学長 殿

現住所

(ふりがな)

氏 名

印

滋賀医科大学学位規程第4条第2項の規定により、下記のとおり関係書類を添えて学位の授与を申請いたします。

記

論 文 目 録	1 1 部
博 士 論 文	1 1 部
論文内容要旨	1 1 部
博士論文の利益相反申告書	1 部
履 歴 書	1 部

- (備 考) 1. 参考論文がある場合は、提出すること。
2. 博士論文が共著である場合は、共著者の承諾書及び自己の担当部分についての報告書を提出すること。
3. 博士論文が未公表の場合は、掲載予定証明書を提出すること。

資 格 審 査 願

年 月 日

滋賀医科大学長 殿

現住所
(ふりがな)
氏 名

印

滋賀医科大学学位規程第4条第2項の規定による学位を申請いたしたく、下記のとおり関係書類を添えて提出しますので資格の審査をお願いします。

記

履 歴 書	1 部
大学卒業証明書	1 部
研究歴証明書	1 部
外国語試験合格証明書	1 部

別紙様式9 (課程博士・論文博士共用)

博士論文審査の結果の要旨

[illegible]

別紙様式10 (課程博士用)

最終試験の結果の要旨

[illegible]

別紙様式11 (論文博士用)

学力の確認の結果の要旨

整理番号		氏名	
論文審査委員	主査		印
	副査		印
	副査		印
(博士論文の関連分野についての試問の結果の要旨)			
(専攻学術の試問の結果の要旨)			
(外国語試験の結果の要旨)			
()年()月()日			

博士論文の利益相反申告書

滋賀医科大学長 殿

学位申請者氏名：

所属・大学院学年あるいは職名：

論文名（著者，題名，掲載誌名，巻，頁，年）：

博士論文に関連して，開示すべき利益相反関係にある企業などを項目ごとに記載する

項 目	該当の状況	有の場合，企業名などの記載
① 企業や営利を目的とした団体の役員，顧問職などの有無と報酬額 (1つの企業・団体から年間50万円以上のものを記載)	(本人) 有 ・ 無	
② 株の保有と，その株式から得られる利益 (1つの企業の1年間の利益が50万円以上，あるいは当該株式の5%以上保有のものを記載)	(本人) 有 ・ 無	
③ 企業や営利を目的とした団体から特許使用料として支払われた報酬	(本人) 有 ・ 無	
④ 企業や営利を目的とした団体から，会議の出席（発表）に対し，研究を拘束した時間・労力に対して支払われた日当，講演料など (1つの企業・団体からの年間合計50万円以上のものを記載)	(本人) 有 ・ 無	
⑤ 企業や営利を目的とした団体からパンフレットなどの執筆に対して支払われた原稿料 (1つの企業・団体から年間合計50万円以上のものを記載)	(本人) 有 ・ 無	
⑥ 企業や営利を目的とした団体が提供する研究費（委託受託研究，共同研究）など（注）	(研究グループ) 有 ・ 無	

(1つの企業・団体から支払われた総額が年間50万円以上のものを記載)		
⑦ 企業や営利を目的とした団体が提供する奨学寄附金（奨励寄附金）などの有無（注） （1つの企業・団体から支払われた総額が年間50万円以上のものを5年前までさかのぼって記載）	（研究グループ） 有 ・ 無	

（注）⑥、⑦については、学位申請者個人だけでなく、学位申請者や共著者が所属する部局（講座、分野）あるいは研究室なども含め、研究成果の発表に関連して開示すべき利益相反関係にある企業や団体などからの研究経費、奨学寄附金などの提供があった場合に申告する必要がある。

以下の項目については、博士論文に関係なく、記載する。

⑧ 企業に所属している者あるいは営利を目的とした団体が提供する寄附講座に所属している者 （所属先の企業、寄附講座に所属している著者の名前と企業名を記載）	（著者全員） 有 ・ 無	
⑨ 研究とは無関係な旅行、贈答品など （1つの企業・団体から年間5万円以上のものを記載）	（本人） 有 ・ 無	

申告日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

所属（講座名・社会人入学者の場合は本務先の企業名も記載）

申告者署名 _____ 印

責任著者署名 _____ 印

PhD-MD制度について

PhD-MD制度とは

PhD-MD 制度とは、医学部医学科第4学年修了後ただちに大学院医学系研究科博士課程に進学して、博士号の学位（PhD）を取得した後、本人の意思により医学部医学科第5学年に復学して臨床医を目指す道、あるいは基礎系研究者となる道のいずれかを選択できる制度のことをいいます。

3年間の大学院医学系研究科博士課程修了を目指し、主指導教員、副指導教員、関連教員による研究指導に加え、領域を超えて指導が受けられるよう配慮します。また、ティーチングアシスタント制度により、就学援助ならびに研究指導者としての資質も高めます。その他奨学金制度等の活用により、生活援助を実施します。

現行制度とPhD-MD制度の違い

（現行制度）

医学部医学科						臨床研修	大学院医学系研究科博士課程			
1年	2年	3年	4年	5年	6年	2年間	1年	2年	3年	4年

（PhD-MD 制度）

医学部医学科				大学院医学系研究科博士課程				2つの選択肢	
1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	(4年)	医学部医学科 5年 6年	臨床研修 2年間
								研究者	

（PhD-MD 制度では、大学院医学系研究科博士課程を3年間で修了するよう、学生に奨励する。）

PhD-MD Program

About PhD-MD Program

Upon finishing the first four years of the curriculum in the School of Medicine, students may choose to enter SUMS Doctoral Program, Graduate School of Medicine to acquire a PhD, and then either continue to work as medical researchers, or re-enroll in the School of Medicine as 5th grade medical students to become clinical doctors.

In this post-graduate course, students are encouraged to complete Doctoral Program in three years. They will receive guidance by a supervisor, a sub-supervisor, and related teachers, but also extra instruction will be available to students outside their specialty. We have a "Teaching Assistants" (TA) system in our university, and post-graduate students can apply to become TAs, both to receive financial benefits and to qualify as research instructors by guiding undergraduate students. We may also be able to offer some other grants and scholarships.

Differences between ordinary program and the PhD-MD Program

(Ordinary program)

School of Medicine						Clinical Training	Graduate School of Medicine			
1st	2nd	3rd	4th	5th	6th	2 years	1st	2nd	3rd	4th

(PhD-MD Program)

School of Medicine				Graduate School of Medicine				Alternative		
1st	2nd	3rd	4th	1st	2nd	3rd	(4th)	School of Medicine		Clinical Training
								5th	6th	2 years
								Researcher		

(In the PhD-MD Program, students are encouraged to complete Doctoral Program in three years.)

大学院（博士課程）における大学院設置基準第 14 条特例の
適用に関する申し合わせ

（医学系大学院委員会）

平成 17 年 9 月 14 日 決定

平成 28 年 1 月 13 日 改正

滋賀医科大学大学院医学系研究科博士課程に在学中の者が、大学院に在籍のままで常勤職員（勤務実態が常勤職員と同等の非常勤職員を含む。）として就職することを希望する場合は、この申し合わせにより取り扱うものとする。

- 1 滋賀医科大学大学院学則第 16 条第 2 項に定める授業科目について 12 単位以上を修得し、かつ在学期間が 1 年以上の者のうち、大学院に在籍のままで常勤職員として就職を希望する者は、事前に指導教員の承認を得た上で、就職先（所属長）の承諾を得て、所定の申請書類を学長に提出するものとする。
- 2 申請があった場合は、医学系大学院委員会の議を経て、大学院設置基準第 14 条（教育方法の特例）（以下「14 条特例」という。）を適用して、学長がこれを許可する。
- 3 この申し合わせにより 14 条特例を適用された者の在学年限は、滋賀医科大学大学院学則第 9 条第 2 項を準用し、社会人入学を希望して入学した者（社会人特別選抜により入学した者を含む。）と同等の 12 年とする。
- 4 この取り扱いは、平成 16 年度入学者から適用する。

附 則

1. この申し合わせは、平成 17 年 9 月 14 日から施行する。
2. 平成 15 年度以前に入学した在学中の大学院学生が、この申し合わせの施行後に、同等の取り扱いを希望した場合は、この申し合わせを準用し、個別に判断するものとする。

附 則

この申し合わせは、平成 28 年 4 月 1 日から実施する。